第九十八條ノ二ニ左ノ一項ヲ加フ

特定少數ノ者ニ對シ推薦狀ノ發送又ハ演說會ノ開催ヲ依賴スル等其ノ他選擧運動ノ事務ノ爲ニスル文書ノ發送ハ之ヲ前項ノ規定ニ依ル文書ノ頒布ト看做サズ

第百一條第一項但書中「文書ニ依ル」ヲ削ル

第百二十九條中「第九十八條ノ二」ノ下ニ「第一項」ヲ加フ

第百三十四條中「一年以下ノ禁錮」ノ下ニ「又ハ百圓以下ノ罰金」ヲ加フ

第百三十六條　當選人其ノ選擧ニ關シ本章ニ揭グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス選擧事務長又ハ選擧運動ヲ總括主宰シタル者第百十二條乃至第百十三條ノ罪ノ中惡質ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同ジ但シ選擧事務長ニ非ズシテ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選擧事務長ニ非ズシテ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者ナルコトヲ知ラザリシトキ又ハ其ノ者ガ當選人ノ制止ニ拘ラズ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十一條中「第十六條、第八十一條、第八十三條又ハ第八十四條第一項」ヲ「第十六條、第八十一條又ハ第八十三條」ニ改ム

第百四十一條ノ二第一項及第二項中「第八十四條第二項」ヲ「第八十四條」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十二年三月九日戸澤民十郎君外二名提出ス同月十六日議事日程ヲ變更シテ本案及三九ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第三九參看）議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十七日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案及三九ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ（委員會報告書ハ本項第三九參看）翌二十四日記名投票ヲ以テ採決ノ結果議事日程ヲ變更シテ本案及三九ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ（委員長報告ハ本項第三九參看）質疑討論ノ後讀會ノ順序ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正議決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日委員ニ付託シタルモ委員會ニ於テハ審査終了ニ至ラサリキ

四二　建築士法案

建築士法

第一條　建築士ハ建築士ノ稱號ヲ用ヒテ當事者ノ委囑ニ因リ建築ニ關スル設計、工事監督、調査又ハ鑑定ヲ業トスルモノトス

第二條　左ノ條件ヲ具フル者ハ建築士タル資格ヲ有ス

一　帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二　建築士試驗ニ合格シ一年六月以上建築ノ設計監督ニ關スル實務修習ヲ了ヘタルコト

前項第二號ノ建築士試驗及實務修習ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士タル資格ヲ有ス

一　建築學ヲ修メタル工學博士

二　帝國大學、大學令ニ依ル大學、專門學校令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ建築ニ關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニシテ一年以上建築ノ設計監督ニ關スル實務ニ從事シタルモノ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ建築士タル資格ヲ有セス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十三條又ハ第十四條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　破産者ニシテ復權ヲ得サル者

四　建築士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者

五　建築士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　建築士タラムトスル者ハ建築士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

建築士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　建築士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第七條　建築士ハ誠實公正ニ其ノ業務ヲ行フヘシ

第八條　建築士ハ其ノ業務ニ關シ委囑者以外ノ者ヨリ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　建築士ハ自ラ左ノ營業ヲ爲シ又ハ左ノ營業ヲ爲ス者ノ使用人タルコトヲ得ス

一　建築土木ニ關スル請負業

二　建築材料ニ關スル商工業

三　土地家屋ニ關スル代理業

第十條　建築士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス

第十一條　建築士本法ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ建築士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

建築士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　建築士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一　譴責

二　千圓以下ノ過料

三　一年以內建築士ノ業務ノ停止

四　建築士ノ業務ノ禁止

前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第十三條　建築士又ハ建築士タリシ者故ナク其ノ業務上知得タル事項ニシテ委囑者ニ必要ナル祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四條　建築士タル資格ヲ有セスシテ建築士ノ稱號ヲ用ヒ建築士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　建築士タル資格ヲ有スルモ其ノ登錄ヲ受ケスシテ建築士ノ稱號ヲ用ヒ建築士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ二年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際迄引續キ一年以上建築ニ關スル設計監督ノ業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年以內ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士試驗委員ノ銓衡ヲ經テ建築士タルコトヲ得

帝國大學、大學令ニ依ル大學、專門學校令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ土木ニ關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニシテ引續キ三年以上建築ノ設計監督ニ關スル業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ五年以內ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士試驗委員ノ銓衡ヲ經テ建築士タルコトヲ

得

右ハ昭和十二年三月九日小西和君外七名提出ス同月二十七日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(小西和君)ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

本案ハ私共八名連署ノ提案デアリマス、建築士法案ハ屢〻本議會ニ提案セラレマシテ、本院ヲ通過致シタコトガ一再ニ止マラナイノデアリマス、而モ貴族院ニ於テ審議未了ニ終ッテ、ソレガ爲ニ成立致シマセヌノデ、又モヤ玆ニ提出スルノ外ナキニ至ッタモノデアリマス、御承知ノ通リ近頃大キナ立派ナ建築ガ、益〻盛ニナッテ參リマシタ、殊ニ皇紀二千六百年萬國大博覽會、國際「オリムピック」ヲ眼前ニ控ヘマシタノデ、益〻大建築ガ盛ニナル趨勢デアリマス、其建築ニ付キマシテ、一定ノ知識技術ヲ要スル者ガ設計ヲ致シ、又建築ニ際シテ之ヲ監督スル必要ノアリマスルコトハ申ス迄モゴザイマセヌ、隨テ現ニ建築士ナルモノガ相當ノ數出來テ居リマス、ソコデ本案ヲ成立サセマシテ、之ニ依ッテ是等ノ建築士ヲ保護スルト同時ニ、其資格ヲ一定致シテ、其助長ヲ圖リ、其弊害ヲ除クト云フコトニ致ス必要ガアリ、併セテ建築スル者ニ安心ヲ與ヘ、建築物ノ向上ヲ圖ルト云フコトニ致シタイ趣意デアリマス、ドウゾ滿場ノ御贊成ヲ得テ、此成立ヲ希望スル次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ同月二十九日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月三十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌三十一日議事日程ニ上リタルモ院議ニ上ラサリキ

四三 金錢債務臨時調停法廢止法律案

金錢債務臨時調停法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ昭和十二年九月三十日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際未タ終了セサル事件ニ付テハ其ノ終了ニ至ル迄仍舊法ニ依ル

右ハ昭和十二年三月十日升田憲元君外十三名提出ス同月三十一日議事日程ニ上リタルモ議題トナラサリキ

四四 行政裁判所法案

行政裁判所法

第一章 總則

第一條 行政裁判所ハ法律ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ裁判ス

第二條 行政裁判所ハ普通行政裁判所及高等行政裁判所トス

第三條　行政裁判所ノ位置、名稱及管轄區域ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　行政裁判所ニ行政裁判官ヲ置ク行政裁判官ハ親任、勅任又ハ奏任トス

行政裁判官ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　行政裁判官ハ裁判權ノ行使ニ付何人ノ指揮ヲモ受クルコトナシ

第六條　行政裁判官ハ左ニ掲グル者ヨリ之ヲ任ズ

一　三年以上高等行政官又ハ裁判官ノ職ニ在リタル者

二　三年以上帝國大學令又ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ法律學ノ教授、助教授又ハ專任教員ノ職ニ在リタル者

三　五年以上辯護士トシテ實務ニ從事シタル者

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ行政裁判官ニ任ゼラルルコトヲ得ズ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　禁治產者又ハ準禁治產者

三　破產者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

四　懲戒ノ處分ニ依リ免官セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者ニシテ免官又ハ除名後五年ヲ經過セザルモノ

第八條　行政裁判官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ズ

一　政事上ノ結社ニ加入スルコト

二　帝國議會若ハ地方議會ノ議員ト爲リ又ハ其ノ選擧運動ヲ爲スコト

三　行政官、裁判官又ハ地方團體ノ吏員ノ職ヲ兼ヌルコト

四　商業ヲ營ミ又ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員ト爲ルコト

第九條　行政裁判官ハ終身官トス懲戒ノ處分又ハ本法ニ依ルノ外其ノ意ニ反シテ其ノ官職ヲ失フコトナシ

第十條　行政裁判官禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ官ヲ失フ

第十一條　行政裁判官年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ高等行政裁判所總會ニ於テ三年內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムベキモノト議決シタルトキハ其ノ期間滿了ノ時ニ於テ退職トス

高等行政裁判所長官ニ限リ前項ノ年齡ヲ六十五年トス

第十二條　行政裁判官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ內閣總理大臣ハ親任ノ行政裁判官ニ在リテハ其ノ退職ヲ上奏シ其ノ他ノ行政裁判官ニ在リテハ之ニ退職ヲ命ズルコトヲ得

一　身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘザルニ至リタルトキ

二　禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　破産者ト爲リタルトキ
四　疾病其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ本人ヨリ退職ヲ出願シタルトキ

前項第一號ノ規定ニ依リ退職ヲ上奏シ又ハ之ヲ命ズルハ高等行政裁判所總會ノ議決アリタル場合ニ限ル

第十三條　行政裁判官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ職務ヲ停止セラル
一　刑事訴訟手續ニ於テ勾留セラレタルトキハ勾留中
二　禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ裁判ノ確定ニ至ル迄
三　拘留ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑ノ執行中

第十四條　行政裁判官職務ヲ停止セラルルトキハ其ノ間俸給ノ三分ノ一ヲ減ズ

第十五條　行政裁判官ノ懲戒ニ關スル規定ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　行政裁判所ニ書記長及書記ヲ置ク書記長ハ奏任トシ書記ハ判任トス

書記長及書記ハ法令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事務ヲ行ヒ及上官ノ指揮ヲ承ケテ庶務ニ從事ス

書記長及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

書記ハ高等行政裁判所長官之ヲ任ズ

第二章　普通行政裁判所

第十七條　普通行政裁判所ハ法律ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル事件ニ付第一審ノ裁判權ヲ有ス

第十八條　普通行政裁判所ノ裁判ハ三人ノ行政裁判官ヲ以テ構成スル部ニ於テ合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條　普通行政裁判所ニ部ヲ設ク

部ノ數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

部ヲ構成スル行政裁判官ノ中一人ヲ裁判長トス

第二十條　普通行政裁判所ニ所長、部長及評定官ヲ置ク

所長ハ內閣總理大臣ノ上奏ニ因リ勅任ノ行政裁判官ヲ以テ之ヲ補ス

部長及評定官ハ勅任又ハ奏任ノ行政裁判官ヲ以テ內閣總理大臣之ヲ補ス

第二十一條　部長及評定官ハ所長ノ定ムル所ニ依リ各部ニ分屬ス

所長ハ一ノ部ノ部長ト爲ル

第二十二條　所長ハ其ノ廳ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ掌理ス

部長ハ裁判長ト爲リ且部ノ事務ヲ監督ス

第二十三條　所長故障アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部長之ヲ代理ス

部長故障アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部員之ヲ代理ス

一ノ部ノ評定官故障アルトキハ所長ハ他ノ部ノ評定官ヲシテ之ヲ代理セシム

評定官故障アル場合ニ於テ其ノ廳ノ評定官中之ヲ代理スベキ者ナキトキハ所長ノ申請ニ因リ高等行政裁判所長官ハ高等行政裁判所評定官ヲシテ之ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十四條　普通行政裁判所ノ事務ハ之ヲ各部ニ分配ス

事務ノ分配ハ各部長ノ意見ヲ聽キ所長豫メ之ヲ定ム

第二十五條　普通行政裁判所ニ書記長及書記ヲ置ク

書記長ハ行政裁判所書記長ヲ以テ內閣總理大臣之ヲ補ス

書記ハ行政裁判所書記ヲ以テ高等行政裁判所長官之ヲ補ス

書記長ハ上官ノ命ヲ承ケテ書記ノ事務ヲ監督ス

第三章　高等行政裁判所

第二十六條　高等行政裁判所ハ左ノ事件ニ付裁判權ヲ有ス

一　終審トシテ普通行政裁判所ノ判決ニ對スル控訴又ハ上告

二　第一審ニシテ終審トシテ先決問題ノ訴訟

三　普通行政裁判所又ハ高等行政裁判所ノ決定ニ對スル故障ノ申立

第二十七條　高等行政裁判所ノ裁判ハ五人ノ行政裁判官ヲ以テ構成スル部ニ於テ合議ヲ以テ之ヲ行フ

第二十八條　高等行政裁判所ニ長官、部長及評定官ヲ置ク

長官ハ親任ノ行政裁判官ヲ以テ之ヲ親補ス

部長ハ內閣總理大臣ノ上奏ニ因リ勅任ノ行政裁判官ヲ以テ之ヲ補ス

評定官ハ勅任又ハ奏任ノ行政裁判官ヲ以テ內閣總理大臣之ヲ補ス

第二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ非ザレバ高等行政裁判所ノ長官、部長又ハ評定官ニ補セラルルコトヲ得ズ

一　三年以上行政裁判官ノ職ニ在リタル者

二　七年以上高等行政官又ハ裁判官ノ職ニ在リタル者

三　七年以上帝國大學令又ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ法律學ノ教授、助教授又ハ專任教員ノ職ニ在リタル者

四　十年以上辯護士トシテ實務ニ從事シタル者

五　高等行政官、裁判官又ハ帝國大學令若ハ大學令ニ依ル大學ニ於ケル法律學ノ教授、助教授若ハ專任教員ノ職ニ在リタル後行政裁判官ト爲リ其ノ在職通ジテ七年以上ニ達シタル者又ハ辯護士トシテ實務ニ從事シタル後行政裁判官ト爲リ其ノ在職通ジテ十年以上ニ達シタル者

第三十條　長官ハ其ノ廳ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ掌理ス

長官ハ普通行政裁判所ノ事務ヲ監督ス

部長ハ裁判長ト爲リ且部ノ事務ヲ監督ス

第三十一條　長官故障アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部長之ヲ代理ス

部長故障アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部員之ヲ代理ス

一ノ部ノ評定官故障アルトキハ長官ハ他ノ部ノ評定官ヲシテ之ヲ代理セシム

評定官故障アル場合ニ於テ其ノ廳ノ評定官中之ヲ代理スベキ者ナキトキハ長官ハ普通行政裁判所ノ所長、部長又ハ評定官ニ其ノ代理ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條　判例ノ變更ハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

部ニ於テ判例ト異ル裁判ヲ爲サントスルトキハ部ハ長官ニ總會ノ招集ヲ請求スベシ

第三十三條　第十九條、第二十一條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ之ヲ高等行政裁判所ニ準用ス

第四章　裁判所ノ事務

第三十四條　行政裁判所ノ審廷ハ之ヲ裁判所內ニ開ク

特別ノ必要アルトキハ高等行政裁判所長官ハ他ノ場所ニ於テ開廷ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十五條　審問ハ裁判長之ヲ指揮ス

審廷ニハ定數ノ行政裁判所ノ列席ヲ要ス

前項ノ外行政裁判所ノ長ハ裁判長ノ請求ニ因リ補充行政裁判官ヲ命ジ審廷ニ列席セシムルコトヲ得補充行政裁判官ハ其ノ事件ノ審問中行政裁判官ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ之ニ代ル

第三十六條　行政裁判所ノ審問及判決ハ之ヲ公開ス

第三十七條　公ノ秩序ヲ害スルノ虞アルトキ又ハ主務大臣ノ要求アルトキハ行政裁判所ハ審問ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

審問ノ公開ヲ停ムルトキハ裁判長ハ其ノ旨ヲ告ゲタル後傍聽人ノ退廷ヲ命ズ

公開ヲ停メタル場合ト雖モ裁判長ハ適當ト認ムル者ニ對シ特ニ傍聽ヲ許可スルコトヲ得

第三十八條　裁判長ハ未成年者又ハ相當ノ服裝ヲ爲サザル者ノ入廷ヲ禁止シ又ハ其ノ退廷ヲ命

ズルコトヲ得

裁判長ハ審問ヲ妨害シ、審廷ノ秩序ヲ紊リ其ノ他審廷ニ於テ不穩ノ擧動ヲ爲ス者ノ退廷ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ外裁判長ハ審廷ノ秩序ヲ維持スル爲ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　部長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲其ノ部ノ評定官ニ專理ヲ命ズルコトヲ得

專理評定官ハ口頭辯論ヲ開クニ先チ訴訟ノ事實、爭點、證憑及同樣ノ事件ニ關スル判例ヲ調査シ之ヲ部長及他ノ評定官ニ報告スルコトヲ要ス

第四十條　裁判ノ合議ハ裁判長之ヲ開キ且其ノ議事ヲ主宰ス

合議ハ之ヲ公行セズ其ノ議事ハ總テ秘密トス

第四十一條　合議ニ於テハ席次低キ行政裁判官ヨリ順次意見ヲ陳述シ裁判長ヲ終トス

專理ヲ命ジタル事件ニ在リテハ專理評定官ハ最初ニ報告ヲ爲シ及意見ヲ陳述スベシ

行政裁判官ハ意見ノ陳述ヲ拒ムコトヲ得ズ

第四十二條　裁判ハ過半數ヲ以テ決ス

第四十三條　高等行政裁判所ノ總會ハ長官之ヲ招集ス

長官ハ總會ノ議長ト爲リ其ノ議事ヲ主宰ス

總會ノ議事長官ノ身上ニ關スルモノナルトキハ第三十一條第一項ノ規定ニ依リ部長其ノ職務ヲ行フ

第四十四條　高等行政裁判所ノ總會ハ其ノ廳ノ行政裁判官總員ノ三分ノ二以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ズ

總會ノ議決ハ出席行政裁判官ノ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十五條　行政裁判官ハ自己ノ身上ニ關スル事件ニ付總會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ズ但シ高等行政裁判所長官ノ許可ヲ得テ出席シ發言スルコトヲ妨ゲズ

第四十六條　前三條ノ外總會ニ關スル規定ハ高等行政裁判所長官之ヲ定ム

第四十七條　行政裁判官ノ席次ハ官等ノ順序ニ依リ同官等內ニ於テハ敍等ノ順序ニ依ル

第四十八條　高等行政裁判所長官ハ行政裁判所ノ事務取扱ニ付本法ニ規定スルモノノ外處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第四十九條　行政訴訟ニ關スル記錄ノ保存ニ付必要ナル規程ハ高等行政裁判所長官之ヲ定ム

附　則

第五十條　本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十一條　行政裁判法ハ之ヲ廢止ス

第五十二條　本法施行前行政裁判所ノ受理シタル訴訟ニシテ未ダ結了セザルモノハ高等行政裁判所ニ繫屬スルモノトス

前項ノ訴訟ヲ審理スベキ部ハ各部長ノ意見ヲ聽キ長官之ヲ定ム

第五十三條　本法施行ノ際現ニ專任行政裁判所長官又ハ評定官ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ同官等俸給ヲ以テ行政裁判官ニ任ゼラレタルモノトス

第五十四條　前條ノ規定ニ依リ行政裁判官ニ任ゼラレタル者ニシテ本法施行ノ日ニ於テ第十一條ニ規定スル年齡ヲ超ユルモノ及本法施行ノ日ヨリ二十日內ニ於テ其ノ年齡ニ達スルモノハ本法施行ノ日ヨリ二十日ヲ經テ退職スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ第十一條第一項但書ノ規定ヲ準用ス但シ同條ニ規定スル年齡ニ三年ヲ加ヘタルモノヲ超エテ在職セシムルコトヲ得ズ

第五十五條　高等行政官ニシテ本法施行ノ際現ニ行政裁判所評定官ヲ兼任スル者ハ本法ニ拘ラズ本官在職中仍其ノ官ヲ保有ス

第五十六條　本法施行ノ際現ニ休職中ノ行政裁判所評定官ハ本法ニ拘ラズ仍其ノ官ヲ保有ス

第五十七條　本法施行ノ際現ニ行政裁判所書記ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ同俸給ヲ以テ行政裁判所書記ニ任ゼラレタルモノトス

第五十八條　舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ第七條第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第五十九條　從前ノ規定ニ依ル行政裁判所長官及評定官ハ第二十九條第一號及第五號ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ行政裁判官ト看做ス

第六十條　大正十年法律第百二號ハ本法施行ノ際現ニ行政裁判所長官又ハ評定官ノ職ニ在ル者本法施行後引續キ行政裁判官トシテ在職シ第十一條ニ規定スル年齡ニ達シタル後退職シ又ハ其ノ官ヲ免ゼラレ恩給ヲ受クベキ場合ニ之ヲ準用ス

二　四五　行政訴訟法案

行政訴訟法

第一編　行政訴訟事件

第一章　總則

第一條　行政訴訟ハ行政裁判所之ヲ裁判ス

第二條　行政訴訟ハ本法又ハ他ノ法律ニ規定アル事件ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

本法ニ定ムル事件ニ付他ノ法律ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ依ル

第三條　行政訴訟ハ抗告訴訟、當事者訴訟及先決問題ノ訴訟トス

第四條　損害賠償ノ請求ハ行政訴訟ノ目的ト爲ルコトナシ但シ公法上ノ賠償又ハ補償ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　左ニ掲グル事件ニ付テハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ

一　兵役ニ關スル件

二　戒嚴ニ關スル件

三　官吏、待遇官吏及公共團體ノ吏員ノ身分ニ關スル件

四　陸海軍ノ紀律ニ關スル件

五　特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル件

六　資格ニ關スル試驗、檢定又ハ銓衡ノ結果ニ關スル件

第六條　左ニ掲グル官廳ノ權限ニ屬スル事件ニ付テハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ

一　司法裁判所、軍法會議、檢事、陸海軍檢察官、司法警察官吏、監獄官吏

二　少年審判所

三　海員審判所

四　捕獲審檢所

五　懲戒裁判所、文官懲戒委員會、陸軍法務官懲戒委員會、海軍法務官懲戒委員會、辨理士懲戒委員會、計理士懲戒委員會

六　關稅訴願審査委員會

七　會計檢査院

第七條　本法ニ於ケル公共團體及公務員ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公共團體ニ關スル本法ノ規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體ニ準ズベキモノニ之ヲ準用スルコトヲ得

第二章　抗告訴訟

第八條　左ニ掲グル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレ又ハ義務ナキ負擔ヲ課セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ以テ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一　國又ハ公共團體ニ於テ課スル金錢、物品又ハ勞役ノ負擔及其ノ標準又ハ擔保ニ關スル件

二　國又ハ公共團體ノ徵收スル金錢ノ滯納處分ニ關スル件

三　租稅徵收義務者ノ責任ニ關スル件

四　公務員ノ國又ハ公共團體ニ對スル賠償責任ニ關スル件

五　國又ハ公共團體ニ對スル金錢又ハ物品ノ給付ヲ目的トスル公法上ノ權利ニ關スル件
六　戰時事變又ハ非常ノ際ニ於ケル必要ノ爲ニスルモノヲ除クノ外財產權ノ收用、使用、剝奪若ハ制限又ハ人ノ徵用ニ關スル件
七　國又ハ公共團體ニ於テ命ズル工作物ノ新設、增築、改築若ハ除却其ノ他ノ工事又ハ除害施設其ノ他ノ施設ニ關スル件
八　公用、公共用又ハ國ノ營林財產タル土地又ハ水面ノ區域ノ査定ニ關スル件
九　鑛業權、砂鑛權、漁業權、地方鐵道又ハ軌道經營ノ權利其ノ他行政廳ノ處分ニ依リ設定スル權利ノ設定、拒否、取消、變更又ハ制限ニ關スル件
十　河海、湖沼、道路、公園其ノ他公共用ノ財產又ハ營造物ノ使用、收益又ハ工事ニ關スル件
十一　警察上ノ許可ニ關スル件
十二　公職、營業又ハ其ノ他ノ業務ニ從事スベキ資格ノ拒否、褫奪又ハ停止ニ關スル件
十三　營業其ノ他ノ業務ノ停止又ハ禁止ニ關スル件
十四　著作物ノ發行差止、差押又ハ發賣頒布ノ禁止ニ關スル件
十五　身體ノ自由ノ拘束又ハ居住ノ制限ニ關スル件
十六　寺院、佛堂、敎會其ノ他宗敎施設ノ廢止ニ關スル件
十七　法人解散ノ處分又ハ存續期間延長ノ拒否ニ關スル件
十八　結社ノ禁止又ハ解散ニ關スル件
十九　官吏、待遇官吏及帝國議會ノ議員ヲ除クノ外國又ハ公共團體ノ議員其ノ他ノ公務員ノ資格有無ノ決定ニ關スル件
二十　法令ニ依ル登錄、試驗、檢定又ハ證明ノ拒否又ハ取消ニ關スル件
二十一　國又ハ公共團體ニ於テ課スル過料、公共團體ニ於テ課スル過怠金、違約金、除名、公民權停止其ノ他ノ制裁ニ關スル件

前項第十五號ニ揭グル事件ニ付テハ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ノ爲其ノ戶主、家族、親族、後見人又ハ親權ヲ行フ者ヨリモ獨立シテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條　左ニ揭グル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ依リ公共團體ガ其ノ公共ノ利益ニ重大ナル侵害ヲ被リ因リテ其ノ權利ヲ毀損セラレタリトスルトキハ公共團體ハ行政訴訟ヲ以テ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一　水利、土木、建築其ノ他ノ工事又ハ設備ニ關スル件
二　營業其ノ他ノ事業ノ許可ニ關スル件

第十條　國又ハ公共團體ノ爲ス公共用營造物ノ施設ニ依リ違法ニ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ以テ其ノ施設ノ撤廢、變更又ハ原狀回復ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ施設ニ依リ公共團體ガ其ノ公共ノ利益ニ重大ナル侵害ヲ被リ因リテ違法ニ其ノ權利ヲ毀損セラレタリトスルトキ亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テ公共團體ノ爲ス施設ニ對シ他ノ公共團體ヨリ行政訴訟ヲ提起スルハ第二十條ノ例ニ依ル

第十一條　帝國議會ノ議員ヲ除クノ外法律ニ依リ行フ議員其ノ他ノ公務員ノ選擧ニ付關係者選擧人名簿ニ異議アルトキハ行政訴訟ヲ以テ其ノ修正又ハ無效宣告ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　帝國議會ノ議員ヲ除クノ外法律ニ依リ行フ議員其ノ他ノ公務員ノ選擧ニ付選擧權ヲ有スル者又ハ當選ヲ失ヒタル者選擧又ハ當選ノ效力ニ異議アルトキハ行政訴訟ヲ以テ其ノ選擧又ハ當選ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ法律ニ依リ組織セラレタル公ノ議事體ニ於テ行フ選擧ニハ之ヲ適用セズ

第十三條　地方行政廳ノ處分ニ對シテハ法律ニ別段ノ規定アル場合又ハ第四項ニ該當スルモノヲ除クノ外先ヅ其ノ直接ノ監督廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル場合ニ限リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ地方行政廳ガ公共團體ノ吏員ナルトキハ訴願ノ裁決ニ對シ行政廳ヨリモ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第十條第一項ノ公共團體、第十一條ノ選擧人名簿調製者及第十二條ノ選擧ノ管理者ガ地方行政廳ノ監督ヲ承クルモノナル場合ニ之ヲ準用ス

內閣總理大臣、各省大臣又ハ直接ニ內閣總理大臣若ハ各省大臣ノ監督ヲ承クル行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條　外國ニ在ル行政廳ノ處分又ハ外國ニ在ル臣民若ハ法人ニ對スル外務大臣ノ處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ

第十五條　行政廳ノ自由裁量ニ屬スル處分ハ其ノ裁量權ニ屬スル限度ニ於テ行政訴訟ノ目的トスル爲ルコトナシ

第十六條　本章ニ揭グル事件中外交、軍機若ハ公安ノ理由ニ因リ又ハ技術ニ關スルモノナルニ因リ行政裁判所ノ審理ニ適セザルモノニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　行政廳ノ處分ガ既ニ完了シ取消ニ依リ其ノ效果ヲ失ハシムルコトヲ得ザルニ至リタル後ニ於テハ其ノ處分ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ

第三章　當事者訴訟

第十八條　公共事務ニ關シ公共團體ノ間ニ公法上ノ協定アル場合ニ於テ其ノ協定ノ效力又ハ義務ノ履行ニ付爭アルトキハ其ノ一方ハ相手方ヲ被告トシ行政訴訟ヲ以テ其ノ效力ノ確認又ハ義務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　公共團體ガ法律ニ依リ他ノ公共團體ノ義務ニ屬スル經費ヲ支辨シタル場合ニ於テ其ノ辨償ノ義務ニ付爭アルトキハ其ノ一方ハ相手方ヲ被告トシ行政訴訟ヲ以テ其ノ確認又ハ履行ヲ請求スルコトヲ得

公共團體ガ法律ニ依リ他ノ公共團體ノ義務ニ屬スル行爲ヲ爲シ其ノ費用ノ辨償ヲ求ムル場合ニ於テ其ノ辨償ノ義務ニ付爭アルトキ亦前項ニ同ジ

第二十條　公共團體ガ他ノ公共團體ノ爲ス公共用營造物ノ施設ニ依リ違法ニ其ノ權利ヲ毀損セラレタリトスルトキハ公共團體ヲ被告トシ行政訴訟ヲ以テ其ノ施設ノ撤廢、變更又ハ原狀回復ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條　公共團體ガ法律ニ依リ爲スコトヲ要スル公ノ施設又ハ行爲ヲ爲サザルニ依リ他ノ公共團體ガ違法ニ其ノ權利ヲ毀損セラレタリトスルトキハ公共團體ヲ被告トシ行政訴訟ヲ以テ其ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　第十八條乃至前條ノ場合ニ於テ雙方ノ公共團體ガ同一ノ地方行政廳ノ監督ヲ承クルモノナルトキハ先ヅ監督廳ノ裁決ヲ申請シ其ノ裁決ニ不服アル場合ニ限リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ公共團體ガ第二次ニ於テ上級ノ同一地方行政廳ノ監督ヲ承クル場合ニ於テハ直ニ第二次監督廳ノ裁決ヲ申請スベシ

第二十三條　行政廳ノ處分ニ依リ設定セラレタル公法上ノ權利ノ有無又ハ範圍ニ付爭アルトキハ關係者ハ當該行政廳ニ其ノ確認ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ相手方ヲ被告トシ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ慣行ニ因リ成立セル公法上ノ權利ニ之ヲ準用ス

第二十四條　左ニ掲グル事件ニ付關係者間ニ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル爲法律ニ依リ行政廳ノ裁定又ハ裁決ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ裁定又ハ裁決ニ不服アル者ハ相手方ヲ被告トシ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣ノ裁定又ハ裁決ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一　土地ノ收用又ハ使用ニ關スル件

二　公法上ノ損失補償ニ關スル件

三　法律ニ依リ施設ヲ爲スベキ義務又ハ負擔スベキ費用ノ區分ニ關スル件

四　其ノ他公法上ノ權利又ハ義務ニ關スル件

第二十五條　一定ノ資格アル者ガ法律ニ依リ其ノ意ニ拘ラズ法人ニ加入スベキモノトセラルル場合ニ於テ違法ニ其ノ法人ノ社員トセラレ又ハ社員ニ非ズトセラレタル者ハ法人ヲ被告トシ行政訴訟ヲ以テ其ノ資格ノ確認ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ法人ガ地方行政廳ノ監督ヲ承クルモノナルトキハ先ヅ監督廳ノ裁決ヲ申請シ其ノ裁決ニ不服アル場合ニ限リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四章　先決問題ノ訴訟

第二十六條　民事訴訟ノ裁判ガ行政廳ノ行爲ノ違法ナリヤ否ヲ先決問題トスル場合ニ於テハ司法裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方ハ相手方ヲ被告トシ行政訴訟ヲ以テ先決問題ノ確認ヲ請求スルコトヲ得

第二編　行政訴訟關係人

第一章　當事者

第二十七條　行政訴訟ハ本法又ハ他ノ法律ニ依リ其ノ提起ヲ許サレタル者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十八條　行政訴訟ヲ提起スル權利ハ其ノ目的タル權利義務ノ移轉ニ因リ其ノ承繼人之ヲ承繼ス

第二十九條　法人ニ非ザル社團又ハ財團ハ代表者ノ定アルモノニ限リ其ノ名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十條　法人又ハ法人ニ非ザル社團若ハ財團ノ解散ニ對シ行政訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ其ノ法人又ハ社團若ハ財團ハ行政訴訟ニ關シテハ仍存續スルモノト看做ス

前項ノ規定ハ法人又ハ法人ニ非ザル社團若ハ財團ガ設立許可ノ取消其ノ他ノ處分ヲ受ケタルニ因リ解散シタル後其ノ處分ニ對シ行政訴訟ヲ提起スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　行政訴訟ノ目的ガ數人ニ共通ノ利害關係アルトキ又ハ數人ニ對シ同種ノ原因ニ基クモノナルトキハ其ノ數人ハ共同シテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條　行政訴訟ノ目的タル權利義務ガ數人ニ共通ナル場合ニ於テハ共同權利者又ハ共同義務者ノ一人又ハ數人ヨリ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條　行政廳ノ處分ニ對スル抗告訴訟ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ以テ被告トス

第十條ノ抗告訴訟ハ營造物ヲ管理スル行政廳ヲ以テ被告トス

第十一條ノ抗告訴訟ハ選擧人名簿ヲ調製シタル行政廳ヲ以テ被告トス

第十二條ノ抗告訴訟ハ選擧ノ管理者ヲ以テ被告トス

前四項ノ行政訴訟ガ訴願ノ裁決ニ不服アルニ因リ提起スルモノナルトキハ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ以テ被告トス

第三十四條　前條ノ規定ニ依リ被告ト爲ルベキ行政廳ガ官制ノ改正又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ訴訟提起前ニ廢止セラレ又ハ其ノ權限ヲ失ヒタルトキハ之ニ該當スル權限ヲ有スル行政廳ヲ以テ被告トス

第三十五條　他ノ法律ニ依ル行政訴訟ニシテ抗告訴訟ニ該當スルモノハ前二條ノ例ニ依ル

行政廳ノ處分、決定又ハ裁決ニ對シ他ノ行政廳又ハ公ノ議事體ヨリ提起スル行政訴訟ハ抗告訴訟トス

第三十六條　當事者訴訟ハ相手方ヲ以テ被告トス行政廳ノ裁決ニ不服アルニ因リ出訴スル場合ニ於テ亦同ジ

第三十七條　他ノ法律ニ依ル行政訴訟ニシテ當事者訴訟ニ該當スルモノハ前條ノ例ニ依ル

左ニ掲グル法律ニ依ル行政訴訟ハ當事者訴訟トス

一　市制第五條第一項及第二項

二　町村制第四條第一項及第二項

三　北海道二級町村制第四條第一項及第二項

四　土地收用法第八十一條

五　森林法第五十五條第二項及第五十七條

六　鑛業法第九十條及第九十二條

七　砂鑛法第五條

八　漁業法第五十六條

九　道路法第五十八條(同法第三十三條第二項ニ依ル決定ニ對シテ出訴スル場合ニ限ル)

第三十八條　未成年者又ハ禁治產者ガ行政訴訟ノ當事者タル場合ニ於テハ法定代理人ニ依リテノミ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者ガ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

法定代理人ガ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ要スルコトナシ

法定代理人ハ書面ヲ以テ其ノ權限ヲ證明スルコトヲ要ス

第三十九條　行政訴訟ノ相手方ガ未成年者又ハ禁治產者ニシテ法定代理人ナク又ハ法定代理人ガ代理權ヲ行フコト能ハザル場合ニ於テハ當事者ハ遲滯ノ爲損害ヲ受クル虞アル場合ニ限リ事件ノ繫屬スル行政裁判所ノ裁判長ニ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得

行政裁判所ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得

本法中法定代理人ニ關スル規定ハ之ヲ特別代理人ニ準用ス

第四十條　法人又ハ法人ニ非ザル社團若ハ財團ガ行政訴訟ノ當事者タル場合ニ於テハ代表者ニ依リ訴訟行爲ヲ爲ス

第三十條ノ場合ニ在リテハ解散當時ノ代表者ヲ以テ代表者トス但シ解散當時ノ定款、規約又ハ寄附行爲ニ依リ之ヲ改任スルコトヲ得

本法中法定代理人ニ關スル規定ハ之ヲ前二項ノ代表者ニ準用ス

第四十一條　公ノ議事體ガ行政訴訟ノ當事者タル場合ニ於テハ議長ニ依リ訴訟行爲ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ議長ガ行政廳トシテ當該訴訟ノ相手方タルトキハ議長代理者ニ依リ訴訟行爲ヲ爲ス但シ議事體ノ議決ニ依リ別ニ代表者ヲ選定スルコトヲ得

本法中法定代理人ニ關スル規定ハ之ヲ議長、議長代理者又ハ代表者ニ準用ス

第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル共同訴訟人多數ナルトキハ其ノ中ヨリ一人又ハ數人ヲ選任シテ總代ト爲シ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

共同訴訟人前項ノ選任ヲ爲サザルトキハ行政裁判所ハ其ノ選任ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ共同訴訟人ハ過半數ノ同意ヲ以テ其ノ選任ヲ爲スコトヲ得

共同訴訟人ハ何時ニテモ總代ヲ改任スルコトヲ得

總代ノ選任及改任ハ書面ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ要ス

總代ノ爲ス訴訟行爲又ハ總代ニ對シテ爲ス訴訟行爲ハ總員ニ對シテ效力ヲ有ス

總代ヲ置キタルトキハ共同訴訟人ハ總代ニ依ルノ外訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第二章　訴訟參加

第四十三條　行政訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中訴訟ニ參加スルコトヲ得

第四十四條　行政訴訟ノ參加ハ行政裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

出訴期間ノ制限アル行政訴訟ニ於テ出訴期間經過ノ後參加ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ行政裁判所ハ參加ヲ許可セザルコトヲ得

第四十五條　參加ノ申立ハ書面ヲ以テ訴訟ノ繫屬スル行政裁判所ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ書面ニハ參加スベキ訴訟事件、參加ノ趣旨及其ノ理由ヲ記載シ參加申立人又ハ其ノ代理人之ニ記名捺印スベシ

本法中訴狀ニ關スル規定ハ之ヲ參加申立書ニ準用ス

第四十六條　參加ヲ許可スベキヤ否ニ付テハ行政裁判所ハ決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

參加ヲ許可シタル後參加人ガ參加ノ要件ヲ具備セザルコト明白ト爲リタルトキハ行政裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

參加ヲ許可セザル決定又ハ其ノ許可ヲ取消ス決定ニ對シテハ一週間内ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

行政裁判所參加ヲ許可シタルトキハ參加申立書ヲ當事者雙方ニ送達ス

第四十七條　行政裁判所ハ職權ヲ以テ行政訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ヲシテ訴訟ニ參加セシムルコトヲ得

第四十八條　第四十三條乃至前條ノ規定ハ係爭ノ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲シタル行政廳ノ參加ニ之ヲ準用ス

第四十九條　本法中當事者ニ關スル規定ハ之ヲ參加人ニ準用ス

第三章　訴訟代理

第五十條　當事者又ハ其ノ法定代理人ノ爲スベキ訴訟行爲ハ訴訟代理人ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得

第五十一條　行政廳ハ其ノ廳ノ官吏、吏員其ノ他ノ職員ヲシテ訴訟代理人タラシムルコトヲ得

第五十二條　公ノ議事體ノ議長、議長代理者又ハ代表者ハ議事體ノ議員ヲシテ訴訟代理人タラシムルコトヲ得

第五十三條　前二條ノ規定ニ依ルノ外辯護士ニ非ザル者ガ訴訟代理人ト爲ルニハ事件ノ繫屬スル行政裁判所ノ裁判長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

行政裁判所ハ何時ニテモ決定ヲ以テ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第五十四條　訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ要ス

訴訟代理人ガ控訴若ハ上告ヲ爲シ又ハ訴、控訴若ハ上告ノ取下ヲ爲スニハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ要ス

第五十五條　訴訟代理權ノ消滅ハ之ヲ相手方ニ通知スルニ非ザレバ相手方ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ

前項ノ通知ハ書面ヲ以テ行政裁判所ニ之ヲ爲シ裁判所之ヲ相手方ニ送達ス

第三編　行政訴訟手續

第一章　總則

第一節　裁判官ノ除斥、忌避及回避

第五十六條　行政裁判官ハ左ノ場合ニ於テ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラル

一　裁判スベキ事件ニ付行政裁判官又ハ其ノ配偶者、三親等内ノ血族若ハ二親等内ノ姻族ガ當事者ナルトキ

二　裁判スベキ事件ニ付行政裁判官ガ證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

三　訴訟ノ目的タル事件ニ付行政裁判官ガ當事者ノ後見人、後見監督人又ハ代理人トシテ關與シタルトキ

四　訴訟ノ目的タル事件ニ付行政裁判官ガ前審ノ行政裁判官、行政廳ノ職員又ハ公ノ議事體ノ議員トシテ關與シタルトキ

第五十七條　除斥ノ原因ノ有無ハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ行政裁判官ノ屬スル行政裁判所之ヲ裁判ス

第五十八條　行政裁判官ニ付裁判ノ公正ヲ妨グベキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ行政裁判官ノ屬スル行政裁判所ニ忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ當事者ガ忌避ノ原因アルコトヲ知リタル後辯論ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十九條　行政裁判官ノ除斥又ハ忌避ニ付テノ裁判ハ行政裁判所決定ヲ以テ之ヲ爲ス

當該行政裁判官ハ前項ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ズ但シ裁判長ノ許可ヲ得テ意見ヲ述ブルコトヲ妨ゲズ

第六十條　除斥又ハ忌避ヲ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ三日內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ裁判ノ確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス但シ急速ヲ要スル行爲ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十二條　第五十六條又ハ第五十八條ノ場合ニ於テハ行政裁判官ハ自ラ回避スルコトヲ得

第二節　期間

第六十三條　本法ニ依ル期間ノ計算ニハ初日ヲ算入セズ但シ其ノ期間ガ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條　期間ハ其ノ末日ノ終了ヲ以テ滿了ス

期間ノ末日ガ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス十二月二十九日ヨリ翌年一月四日ニ至ル迄ハ本項ノ適用ニ關シテハ之ヲ一般ノ休日ト看做ス

第六十五條　期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ其ノ期間ハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ初ヨリ期間ヲ起算セザルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿期日トス

第六十六條　期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メザルトキハ其ノ期間ハ裁判ガ效力ヲ生ジタル時ヨリ進行ヲ始ム

第六十七條　行政裁判所ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

裁判長、專理評定官又ハ證據調ヲ命ゼラレタル行政裁判官ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第六十八條　期間ハ訴訟手續ノ中止中其ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ム

第三節　送達

第六十九條　本法ニ依リ爲スベキ送達ハ行政裁判所書記其ノ事務ヲ處理ス

第七十條　送達ハ行政裁判所ニ出頭シタル者ニ對シ書記ガ自ラ之ヲ爲ス場合ヲ除クノ外使丁又ハ郵便ニ依リ之ヲ爲ス

第七十一條　送達ハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クベキ者ニ送達スベキ書類ノ謄本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十二條　當事者ガ自ラ訴訟行爲ヲ爲スコト能ハザル者ナルトキハ當事者ニ爲スベキ送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲ス

當事者ガ第四十二條ノ規定ニ依リ總代ヲ置キタルトキハ當事者ニ爲スベキ送達ハ總代ニ之ヲ爲ス

訴訟代理人アルトキハ當事者ニ爲スベキ送達ハ訴訟代理人ニ之ヲ爲ス但シ當事者、法定代理人又ハ總代ニ爲シタル送達ハ訴訟代理人アル場合ニ於テモ仍其ノ效力ヲ有ス

數人ガ共同シテ代理權ヲ行フベキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十三條　送達ハ之ヲ受クベキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス

當事者、法定代理人、總代又ハ訴訟代理人ハ行政裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クベキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ行政裁判所ニ屆出ヅルコトヲ得

住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ爲シタル送達ハ前項ノ屆出アリタル場合ニ於テモ仍其ノ效力ヲ有ス

第七十四條　送達ヲ爲スベキ場所ニ於テ送達ヲ受クベキ者ニ出會ハザルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルベキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

前項ニ掲グル者其ノ他書類ノ交付ヲ受クベキ者ガ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スベキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得

第七十五條　送達ヲ爲シタル者ハ送達ニ關スル事項ヲ記載シタル書面ヲ作リ之ヲ行政裁判所ニ

提出スベシ

第七十六條　送達ヲ受クベキ者ノ住所、居所其ノ他ノ送達ヲ爲スベキ場所知レザルトキ其ノ他送達ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキハ行政裁判所書記ハ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

第七十七條　公示送達ハ送達ヲ受クベキ者ノ氏名、送達スベキ書類ノ要領及送達ヲ爲スコト能ハザルニ因リ行政裁判所書記其ノ書類ヲ保管スル旨ヲ記載シ之ヲ官報ニ公告スルニ依リ之ヲ爲ス但シ召喚狀ノ場合ニ在リテハ召喚狀ノ全文ヲ官報ニ公告スルコトヲ要ス

第七十八條　公示送達ハ前條ノ規定ニ依ル公告ノ日ヨリ二週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ但シ同一人ニ對スル第二回以後ノ公示送達ハ公告ノ日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

第二章　第一審ノ訴訟手續

第一節　訴

第一款　出訴期間

第七十九條　行政廳ノ處分、決定又ハ裁決ニ對スル抗告訴訟ハ其ノ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

處分ヲ受ケザル者又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケザル者ヨリ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ處分、決定又ハ裁決ノ公示アリタル場合ニ在リテハ公示ノ日ヨリ、其ノ公示ナキ場合ニ在リテハ處分、決定又ハ裁決アリタルコトヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算ス但シ處分、決定又ハ裁決アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタル後ニ於テハ訴ヲ提起スルコトヲ得ズ

第八十條　工事、設備其ノ他ノ施設ノ撤廢、變更又ハ原狀回復ヲ請求スル行政訴訟ハ其ノ施設ニ依リ權利ヲ毀損セラルルコトヲ知リタル日ヨリ六十日內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ其ノ施設ノ竣成シタル日ヨリ一年ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ提起スルコトヲ得ズ

第八十一條　第十一條ノ行政訴訟ハ選擧人名簿ノ縱覽期間內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八十二條　第十二條ノ行政訴訟ハ當選人ノ決定ノ公示アリタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八十三條　前二條ノ行政訴訟ガ訴願ノ裁決ニ不服アルニ因リ提起スルモノナルトキハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

裁決書ノ交付ヲ受ケザル者ヨリ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ裁決ノ公示アリタル場合ニ在リテハ公示ノ日ヨリ、其ノ公示ナキ場合ニ在リテハ裁決アリタルコトヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八十四條　行政廳ノ裁決ニ不服アルニ因リ提起スル當事者訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日

ヨリ六十日内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八十五條　先決問題ノ訴訟ハ司法裁判所ガ訴訟手續ヲ中止シタル日ヨリ六十日内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八十六條　他ノ法律ニ依リ提起スル行政訴訟ニシテ其ノ出訴期間ニ別段ノ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル

第八十七條　行政訴訟ヲ提起スル者行政裁判所所在地ニ住所ヲ有セザルトキハ出訴期間ハ其ノ住所地ト裁判所所在地トノ距離ニ應ジ海陸路百粁毎ニ一日ヲ伸張ス其ノ距離又ハ端數百粁ニ滿タザルモ四十粁以上ナルトキ亦同ジ

行政廳又ハ公ノ議事體ヨリ行政訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ官公署所在地ヲ以テ住所地ト看做ス

第八十八條　天災其ノ他當事者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ決定ノ期間内ニ行政訴訟ヲ提起スルコト能ハザリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル後二週間内ニ限リ仍行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二款　訴ノ提起

第八十九條　行政訴訟ノ提起ハ訴狀ヲ管轄權アル行政裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

第九十條　訴狀ニハ當事者、法定代理人及請求ノ趣旨ヲ記載シ原告又ハ其ノ代理人之ニ記名捺印スベシ

前項ノ外訴狀ニハ請求ノ理由ヲ述ベ且處分書、決定書、裁決書其ノ他事件ノ經過ヲ明ニスベキ關係書類、證據書類及證據說明書ヲ添附スベシ但シ出訴期間ノ經過後ニ於テモ之ヲ追加スルコトヲ妨ゲズ

第九十一條　訴狀及之ニ添附スル書類ハ被告ニ送付スルニ必要ナル謄本ヲ添ヘテ之ヲ提出スベシ

第九十二條　行政訴訟ヲ提起スル者ハ書類ノ送達ニ充ツベキ費用トシテ訴狀ノ提出ト共ニ必要ナル金額ヲ行政裁判所ニ豫納スベシ

豫納金額及其ノ納付ノ方法ハ高等行政裁判所長官告示ヲ以テ之ヲ定ム

第九十三條　訴狀ガ必要ナル方式ヲ具備セザルトキ又ハ被告ノ指定ニ誤アルトキハ行政裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ補正ヲ爲スベキコトヲ命ズ豫納金ヲ納付セザル場合ニ於テ其ノ納付ニ付亦同ジ

第九十四條　行政裁判所訴狀ヲ受理シタルトキハ訴狀及之ニ添附シタル書類ヲ被告ニ送達シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ答辯書ヲ提出スベキコトヲ命ズ

第九十五條　答辯書ニハ當事者、法定代理人竝ニ答辯ノ趣旨及其ノ理由ヲ記載シ被告又ハ其ノ代理人之ニ記名捺印スベシ

答辯書ニハ證據書類及證據說明書ヲ添附スベシ

第九十六條　答辯書及之ニ添附スル書類ハ原告ニ送付スルニ必要ナル謄本ヲ添ヘテ之ヲ提出スベシ

答辯書及之ニ添附シタル書類ハ行政裁判所之ヲ原告ニ送達ス

第九十七條　行政訴訟ノ提起ハ本法又ハ他ノ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外行政廳ノ處分ノ執行ヲ停止スルコトナシ

第九十八條　行政廳ノ處分ノ執行ヲ停止スルニ非ザレバ原告ノ請求ノ趣旨ヲ達スルコト能ハズ又ハ著シキ困難ヲ生ズル虞アルトキハ原告ハ訴狀ノ提出ト共ニ又ハ其ノ以後ニ於テ行政裁判所ニ處分ノ執行ヲ停止スベキコトヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ニ對シテハ行政裁判所ハ決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第九十九條　行政裁判所ハ職權ニ依ル決定ヲ以テ係爭ノ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百條　行政裁判所ハ前二條ノ決定ニ依リ第三者ニ對シ係爭ノ處分ニ基キテ爲ス行爲ノ停止ヲ命ズルコトヲ得但シ急迫ノ場合ヲ除クノ外豫メ第三者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第百一條　前三條ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第三款　訴ノ却下、移送及取下

第百二條　訴ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ行政裁判所ハ訴狀ニ就キ審査シ直ニ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得

一　事件ガ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許サレタルモノナラザルトキ

二　原告ガ行政訴訟ノ提起ヲ許サレタル者ナラザルトキ

三　代理人トシテ本人ノ爲ニ又ハ總代トシテ總員ノ爲ニ訴ヲ提起シタル者ガ其ノ權限ヲ證明スルコト能ハザルトキ

四　出訴期間ヲ經過シタルモノナルトキ

五　法定ノ手續ニ違背スルモノナルトキ

六　第九十三條ノ規定ニ依リ行政裁判所ノ命ジタル期間內ニ訴狀ノ補正ヲ爲サズ又ハ豫納金ヲ納付セザルトキ

第百三條　訴ガ他ノ行政裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ行政裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ管轄裁判所ニ移送ス

前項ノ決定ニ對シテハ一週間內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百四條　移送ノ決定確定シタルトキハ行政訴訟ハ初ヨリ移送ヲ受ケタル行政裁判所ニ提起セラレタルモノト看做ス

第百五條　訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下グルコトヲ得但シ抗告訴訟ニ在リテハ第一審判決ノ言渡アリタル後ニ於テハ之ヲ取下グルコトヲ得ズ

第二節　辯論

第百六條　行政訴訟ニ於テ裁判ヲ爲スニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外口頭辯論ヲ經ルコトヲ要ス

第百七條　當事者ハ口頭辯論ヲ準備スル爲ニ書面ヲ以テ事實上及法律上ノ點ニ付訴狀又ハ答辯書ニ盡サザル所ヲ補足シ、誤謬ヲ更正シ又ハ新ニ證據ノ申出ヲ爲スコトヲ得但シ請求ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ズ

行政裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メテ當事者ニ準備書面ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

準備書面ハ相手方ニ送付スルニ必要ナル謄本ヲ添ヘテ之ヲ提出スベシ

準備書面ハ行政裁判所之ヲ相手方ニ送達ス

第百八條　口頭辯論ノ期日ハ裁判長職權ヲ以テ之ヲ定ム

期日ハ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ限リ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

第百九條　裁判長口頭辯論ノ期日ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ當事者ニ通知ス

期日ノ通知ハ召喚狀ノ送達ニ依リ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付出頭シタル者ニ對シテハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十條　當事者ノ全部ガ口頭辯論ヲ望マザル旨ノ申立ヲ爲シタルトキハ行政裁判所ハ口頭辯論ヲ開カズ當事者ノ提出シタル書面ニ就キ審理シ裁判ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テモ行政裁判所必要アリト認ムルトキハ口頭辯論ヲ開クコトヲ得

第百十一條　口頭辯論ハ裁判長其ノ開閉ヲ命ジ及之ヲ指揮ス

發言ニハ裁判長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

裁判長ノ命ニ從ハザル者ニ對シテハ裁判長ハ其ノ發言ヲ禁止スルコトヲ得

第百十二條　口頭辯論ニ於テハ當事者ハ事實上及法律上ノ點ニ付書面ニ盡サザル所ヲ補足シ、誤謬ヲ更正シ又ハ新ニ證據ノ申出ヲ爲スコトヲ得但シ請求ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ズ

裁判長又ハ陪席行政裁判官ハ當事者ニ問ヲ發シ必要ナル陳述又ハ立證ヲ促スコトヲ得但シ陪席行政裁判官ガ之ヲ爲スニハ裁判長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

當事者ハ裁判長ニ必要ナル發問ヲ求ムルコトヲ得

第百十三條　口頭辯論續行ノ期日及辯論ノ終結ハ裁判長職權ヲ以テ之ヲ定ム

第百十四條　行政裁判所ハ事件ニ付範圍ヲ定メ專理評定官又ハ其ノ他ノ行政裁判官ヲシテ審理ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ審理ヲ命ゼラレタル行政裁判官ハ其ノ職務ヲ行フニ必要ナル限度ニ於テ第百八條、第百十一條、第百十二條第二項第三項及前條ノ規定ニ依ル裁判長ノ權限ヲ有ス

第百十五條　行政裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命ズルコトヲ得

第百十六條　行政裁判所ハ一箇ノ訴ニ於テ爲シタル數箇ノ請求ニ付辯論ヲ分離シテ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第百十七條　行政裁判所ハ同一ノ請求ニ付數箇ノ論點ガ提出セラレタル場合ニ於テ先ヅ辯論ヲ一又ハ二以上ノ論點ニ制限スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第百十八條　同一ノ行政裁判所ニ繫屬スル數箇ノ訴訟ニシテ性質上一箇ノ訴訟トシテ提起シ得ベキモノナルトキハ行政裁判所ハ其ノ辯論及裁判ノ併合ヲ命ズルコトヲ得

第百十九條　行政裁判所ハ前三條ノ命ヲ取消スコトヲ得

第百二十條　當事者ガ口頭辯論ノ期日ニ於テ出頭セザルトキ又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サザルトキハ行政裁判所ハ當事者ガ書面ヲ以テ辯論ヲ盡シタルモノト看做スコトヲ得

第百二十一條　主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ委員ヲ命ジテ口頭辯論ニ立會ヒ公益ヲ辯護スル爲ニ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ豫メ其ノ旨ヲ行政裁判所ニ通知スベシ

前項ノ目的ノ爲ニ主務大臣ハ行政裁判所ニ口頭辯論ノ期日ノ通知ヲ求ムルコトヲ得

第百二十二條　行政裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命ズルコトヲ得

第百二十三條　口頭辯論ニ付テハ書記期日毎ニ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第百二十四條　調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及書記之ニ署名捺印ス裁判長故障アルトキハ席次ノ順ニ從ヒ陪席行政裁判官之ニ代リテ署名捺印ス

一　事件ノ表示

二　行政裁判官及書記ノ氏名

三　主務大臣ノ命ジタル委員ノ立會アリタルトキハ委員ノ氏名

四　出頭シタル當事者又ハ代理人及闕席シタル當事者ノ氏名

五　口頭辯論ノ場所及年月日

六　口頭辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セザルトキハ其ノ理由

第百二十五條　調書ニハ口頭辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ナラシムベシ

一　辯論ノ分離、制限又ハ併合

二　當事者ノ事實上及法律上ノ主張竝ニ相手方ノ之ニ對スル承認又ハ否認

三　證人又ハ鑑定人ノ宣誓及陳述

四　檢證ノ結果

五　裁判長ノ記載ヲ命ジタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

六　書面ニ作ラザル裁判

七　裁判ノ言渡

第百二十六條　關係人ハ調書ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

調書ノ記載ニ付關係人異議ヲ述ベタルトキハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スベシ

第百二十七條　決定ヲ以テ爲スベキ裁判ニ付テハ口頭辯論ヲ開クヤ否ハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依ル

第三節　證據

第百二十八條　裁判ヲ爲スニ必要ナル證據ハ當事者ノ申出ニ係ルモノノ外行政裁判所職權ヲ以テ之ヲ蒐集調査スルコトヲ得

證據調ハ必要ニ依リ裁判所外ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十九條　行政裁判所ハ當事者ノ申出ニ係ル證據ト雖モ裁判ヲ爲スニ必要ナラズト認ムルモノハ之ヲ調査セザルコトヲ得

第百三十條　事實ニ關スル當事者ノ主張ニシテ當事者ノ立證ナキモノハ當事者間ニ爭ナキ事實又ハ立證ヲ待タズシテ明白ナル事實ヲ除クノ外行政裁判所ハ證據ニ依ラズシテ之ヲ否認スルコトヲ得

第百三十一條　行政裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ證人トシテ召喚シ及之ヲ訊問スルコトヲ得

第百十二條第二項及第三項竝ニ民事訴訟法第二百七十二條乃至第二百七十六條、第二百八十條乃至第二百八十二條、第二百八十五條乃至第二百九十二條及第二百九十四條乃至第二百九十七條ノ規定ハ前項ノ證人訊問ニ之ヲ準用ス

第百三十二條　證人トシテ召喚セラレタル者正當ノ理由ナクシテ出頭セザルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

前項過料ノ裁判ハ行政裁判所決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定ニ對シテハ二週間內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十三條　行政裁判所ハ決定ヲ以テ正當ノ理由ナクシテ出頭セザル證人ヲ勾引スルコトヲ得

勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲シ司法警察官吏ニ囑託シテ之ヲ執行セシム

第百三十四條　證人ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證言ヲ拒絶スルコトヲ得ズ

證言ヲ拒絶スルニハ其ノ理由ヲ開示スルコトヲ要ス

行政裁判所ハ證言拒絶ノ當否ヲ裁判ス但シ其ノ拒絶ヲ理由ナシトスル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ當事者及證人ハ一週間內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十五條　第百三十二條ノ規定ハ證人ガ理由ヲ開示セズシテ證言ヲ拒絶スル場合又ハ證言拒絶ヲ理由ナシトスル決定ノ確定シタル後仍證言ヲ拒絶スル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十六條　前二條ノ規定ハ證人ガ宣誓ヲ拒絶スル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十七條　行政裁判所ハ其ノ適當ト認ムル者ヲ鑑定人トシテ召喚シ及之ニ鑑定ヲ命ズルコトヲ得

第百三十一條第二項、第百三十二條及第百三十四條乃至第百三十六條竝ニ民事訴訟法第三百二條及第三百七條乃至第三百九條ノ規定ハ前項ノ鑑定人ニ之ヲ準用ス

第百三十八條　鑑定人ニ付鑑定ノ公正ヲ妨グベキ事情アルトキハ當事者ハ行政裁判所ニ忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ鑑定人ガ既ニ鑑定ノ結果ニ付陳述ヲ爲シタル後ニ於テハ其ノ後ニ至リ忌避ノ原因ヲ生ジ又ハ當事者ガ其ノ原因アルコトヲ知リタル場合ヲ除クノ外其ノ申立ヲ爲スコトヲ得ズ

忌避ノ申立ニ對スル裁判ハ行政裁判所決定ヲ以テ之ヲ爲ス之ヲ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ三日內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十九條　行政裁判所ハ當事者又ハ第三者ニ其ノ所持スル文書ニシテ審理上必要アルモノノ提出ヲ命ズルコトヲ得

民事訴訟法第三百十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百四十條　當事者ガ前條ノ規定ニ依ル文書提出ノ命ニ從ハザルトキハ行政裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得當事者ガ其ノ文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハザルニ至ラシメタルトキ亦同ジ

第百四十一條　第三者ガ正當ノ理由ナクシテ第百三十九條ノ規定ニ依ル文書提出ノ命ニ從ハザルトキハ行政裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ二週間內ニ故

障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百四十二條　文書ノ提出ハ行政裁判所ガ特ニ原本ノ提出ヲ命ジタル場合ヲ除クノ外公ノ認證アル謄本ヲ以テスルコトヲ得

第百四十三條　第百三十九條乃至前條ノ規定ハ證徵ノ爲作リタル物件ニシテ文書ニ非ザルモノノ提出ニ之ヲ準用ス

第百四十四條　行政裁判所ハ審理上必要アルトキハ實地ニ就キ檢證ヲ爲スコトヲ得

第百四十五條　行政裁判所ハ審理上必要アルトキハ行政廳又ハ司法裁判所ニ書類ノ提出又ハ提示ヲ求ムルコトヲ得

行政廳又ハ司法裁判所ハ書類ガ祕密ニ屬スルモノナルトキ其ノ他正當ノ理由アル場合ヲ除クノ外其ノ提出又ハ提示ヲ拒ムコトヲ得ズ

第百四十六條　行政裁判所ハ司法裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニ基ク證據調ハ民事訴訟法ニ依ル

第百四十七條　行政裁判所ハ證據調ニ付行政廳ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第百四十八條　行政裁判所ハ專理評定官又ハ其ノ他ノ行政裁判官ニ命ジテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ證據調ヲ命ゼラレタル行政裁判官ハ證據調ニ付行政裁判所ト同一ノ權限ヲ有ス但シ過料ノ裁判ハ此ノ限ニ在ラズ

第四節　訴訟ノ承繼及訴訟手續ノ中止

第百四十九條　行政訴訟ノ繫屬中當事者死亡シタルトキハ訴訟ノ目的タル權利義務ガ承繼シ得ベキモノナル場合ニ限リ相續人又ハ相續財產管理人其ノ訴訟ヲ承繼ス

第百五十條　行政訴訟ノ繫屬中當事者タル法人ガ合併ニ因リ消滅シタルトキハ訴訟ノ目的タル權利義務ガ承繼シ得ベキモノナル場合ニ限リ合併ニ因リ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人其ノ訴訟ヲ承繼ス

第百五十一條　行政訴訟ノ繫屬中當事者タル行政廳ガ官制ノ改正又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ廢止セラレ若ハ訴訟ノ目的タル事項ニ付權限ヲ失ヒタルトキハ之ニ該當スル權限ヲ有スル行政廳其ノ訴訟ヲ承繼ス

第百五十二條　行政訴訟ノ繫屬中當事者タル行政廳ニ更迭アリタルトキハ後任ノ行政廳其ノ訴訟ヲ承繼ス

第百五十三條　第百四十九條乃至前條ノ規定ニ依ル訴訟ノ承繼ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外訴訟手續ノ進行ヲ妨グルコトナシ

第百五十四條　第百四十九條ノ場合ニ於テハ第百五十五條ノ規定ニ依リ相續人又ハ相續財産管理人ガ屆出ヲ爲シ又ハ行政裁判所ガ承繼ヲ認定スルニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス但シ訴訟代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五十五條　第百四十九條及第百五十條ノ場合ニ於テハ訴訟承繼者ハ遲滯ナク之ヲ事件ノ繫屬スル行政裁判所ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆出ナキ場合ニ於テモ行政裁判所ハ職權ヲ以テ訴訟ノ承繼ヲ認定スルコトヲ得

第百五十一條及第百五十二條ノ場合ニ於テハ行政裁判所職權ヲ以テ訴訟ノ承繼ヲ認定ス

第百五十六條　訴訟代理人ハ訴訟ノ承繼ニ因リ代理權ヲ失フコトナシ

第百五十七條　行政訴訟ノ繫屬中訴訟ノ目的タル權利義務ガ隱居、讓渡其ノ他ノ原因ニ因リ當事者ヨリ第三者ニ移轉シタルトキハ承繼人ハ被承繼人ノ同意ヲ得テ書面ヲ以テ事件ノ繫屬スル行政裁判所ニ訴訟承繼ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百五十八條　第三者ノ訴訟參加アリタル後ニ於テ原告ガ訴ヲ取下ゲタルトキハ其ノ取下アリタル部分ニ付參加人ハ書面ヲ以テ行政裁判所ニ訴訟承繼ノ申立ヲ爲スコトヲ得

參加人ノ訴訟承繼ノ申立ハ取下ノ通知ヲ受ケタル後二週間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百五十九條　前二條ノ規定ニ依ル訴訟承繼ノ申立ハ行政裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナシト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下ス

前項ノ決定ニ對シテハ二週間內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百六十條　行政訴訟ノ繫屬中當事者ガ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ、法定代理人ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ他當事者ガ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト能ハザルトキハ行政裁判所ハ決定ヲ以テ訴訟手續ヲ中止ス但シ訴訟代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

行政裁判所ハ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第百六十一條　行政訴訟ノ繫屬中當事者ガ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ訴訟ガ破産財團ニ關スルモノナル場合ニ限リ破産法第六十九條ノ規定ニ依ル受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第百六十二條　行政訴訟ノ目的タル事項ガ現ニ繫屬スル民事訴訟ノ結果ニ依リ影響セラルベキ場合ニ於テハ行政裁判所ハ決定ヲ以テ民事訴訟ノ完結ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第百六十三條　天災其ノ他ノ事故ニ因リ行政裁判所其ノ職務ヲ行フコト能ハザルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故止ムニ至ル迄中止ス

第五節　裁判

第百六十四條　行政裁判所ハ訴訟ガ裁判ヲ爲スニ適スルニ至リタルトキハ終局判決ヲ爲ス

辯論ノ併合ヲ命ジタル數箇ノ訴訟中ノ一ガ裁判ヲ爲スニ適スルニ至リタルトキ亦前項ニ同ジ

第百六十五條　行政裁判所ハ訴訟ニ於ケル請求ノ一部ガ先ヅ裁判ヲ爲スニ適スルニ至リタルトキハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ爲スコトヲ得

第百六十六條　行政裁判所ハ訴訟ニ於ケル特定ノ爭點ガ先ヅ裁判ヲ爲スニ適スルニ至リタルトキハ其ノ點ニ付中間判決ヲ爲スコトヲ得

第百六十七條　行政裁判所ノ判決ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申立ノ範圍外ニ出ヅルコトヲ得ズ

行政裁判所ハ其ノ判決ノ理由ニ付當事者ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ

第百六十八條　訴ガ第百二條各號ノ規定ニ該當スルモノナルトキハ行政裁判所ハ判決ヲ以テ訴ヲ却下ス

第百六十九條　行政廳ノ處分、決定又ハ裁決ニ對スル訴ニ於テ行政裁判所其ノ處分、決定又ハ裁決ヲ正當ナリトスルトキハ判決ヲ以テ原告ノ請求ヲ棄却ス

處分、決定又ハ裁決ガ其ノ理由ニ於テ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ因リ結果ニ於テ正當ナルトキ亦前項ニ同ジ

第百七十條　行政訴訟ノ繫屬中ニ於テ訴訟ノ目的ガ消滅シタルトキハ行政裁判所ハ判決ヲ以テ原告ノ請求ヲ棄却ス

第百七十一條　行政廳ノ處分、決定又ハ裁決ニ對スル訴ニ於テ行政裁判所其ノ處分、決定又ハ裁決ヲ違法ナリトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ取消シ若ハ變更シ又ハ之ト共ニ給付ノ返還、施設ノ撤廢其ノ他ノ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ判決ノ效力ガ第三者ニ及ブモノナルトキハ行政裁判所ハ豫メ第三者ヲシテ訴訟ニ參加セシムルコトヲ要ス

第百七十二條　行政廳ノ處分、決定又ハ裁決ノ變更ヲ求ムル訴ニ於テ行政裁判所其ノ處分、決定又ハ裁決ヲ違法ナリトスル場合ニ於テモ仍審理ヲ爲ス必要アルトキハ判決ヲ以テ之ヲ取消シ事件ヲ原行政廳ニ差戻スコトヲ得

第百七十三條　當選ノ效力ニ關スル行政訴訟ニ於テ其ノ當選ノ基礎タル選擧ノ全部又ハ一部ガ無效ナルトキハ行政裁判所ハ當事者ノ申立ニ拘ラズ選擧ノ無效ヲ判決スベシ

第百七十四條　第八條第一項第七號、第九號及第十號竝ニ第九條ノ行政訴訟ニ於テ原告ノ請求理由アル場合ト雖モ既ニ爲シタル工事、設備又ハ其ノ他ノ施設ノ狀況ニ因リ處分ノ取消又ハ變更ヲ不適當ト認ムルトキハ行政裁判所ハ之ニ代ヘ起業者ヲシテ除害施設又ハ損失補償ヲ爲

サシムルコトヲ判決スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ行政裁判所ハ起業者ヲシテ訴訟ニ參加セシムルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ損失補償ノ裁判ハ民事訴訟ニ依ル損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第一項ノ規定ハ被告又ハ起業者ニ於テ其ノ適用ノ除外ヲ求メタルトキハ之ヲ適用セズ

第百七十五條　第十條及第二十條ノ行政訴訟ニ於テ原告ノ請求理由アル場合ト雖モ既ニ爲シタル工事ノ狀況ニ因リ工事ノ撤廢、變更又ハ原狀回復ヲ不適當ト認ムルトキハ行政裁判所ハ之ニ代ヘ國又ハ公共團體ヲシテ除害施設又ハ損失補償ヲ爲サシムルコトヲ判決スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百七十六條　前二條ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ提起スル行政訴訟ニシテ前二條ニ揭グル行政訴訟ニ該當スルモノニ之ヲ準用ス

第百七十七條　判決ハ其ノ基本タル辯論ニ關與シタル行政裁判官之ヲ爲ス

行政裁判官ノ更迭アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第百七十八條　判決ハ言渡ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第百七十九條　判決ノ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス

事宜ニ依リ裁判長ハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告グルコトヲ得

判決ノ言渡ハ當事者ガ在廷セザル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第百八十條　判決ノ言渡ハ辯論終結ノ日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲ス但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百八十一條　判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル行政裁判官之ニ署名捺印ス

一　主文

二　事實及爭點

三　理由

四　當事者及法定代理人

五　行政裁判所

第四十二條ノ規定ニ依リ總代ヲ置キタルトキハ總代ヲ以テ前項第四號ノ當事者ト看做ス

判決ニ署名捺印スベキ行政裁判官故障ニ因リ之ヲ爲スコト能ハザルトキハ他ノ行政裁判官其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スベシ

第百八十二條　判決ハ言渡後遲滯ナク之ヲ行政裁判所書記ニ交付スベシ

書記判決ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ニ言渡及交付ノ日ヲ附記シ且捺印スベシ

書記ハ判決ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス

第百八十三條　判決ニ書損、違算其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ行政裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正ノ決定ヲ爲スコトヲ得

更正ノ決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハザルトキハ決定ノ正本ヲ作リ之ヲ當事者ニ送達ス

更正ノ決定ニ對シテハ一週間内ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百八十四條　行政裁判所ハ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脫漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬ス

訴訟費用負擔ノ裁判ヲ脫漏シタル場合ニ於テハ行政裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲ス

前項ノ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

前二項ノ規定ハ本案判決ニ對シ控訴アリタルトキハ之ヲ適用セズ既ニ決定ヲ爲シタル後控訴アリタルトキハ決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第百八十五條　行政裁判所ノ確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ既判力ヲ有ス

第百八十六條　行政裁判所ノ確定判決ハ關係行政廳ヲ羈束ス

第百八十七條　決定ニハ其ノ性質ニ反セザル限リ判決ニ關スル規定ヲ準用ス

決定ハ相當ノ方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ決定ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スベシ

第三章　上訴

第一節　控訴

第百八十八條　控訴ハ普通行政裁判所ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ第二百六條ノ規定ニ依リ上告ヲ爲スコトヲ得ベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

訴訟費用負擔ノ裁判ニ付テハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

第百八十九條　控訴ハ第一審判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

但シ判決ノ言渡アリタル後ハ其ノ送達前ニ於テモ之ヲ提起スルコトヲ得

第百九十條　控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ高等行政裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

第百九十一條　控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ控訴人又ハ其ノ代理人之ニ記名捺印スベシ

一　當事者及法定代理人

二　第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨

前項ノ外控訴狀ニハ第一審判決ニ不服アル點及其ノ不服ノ理由ヲ記載スベシ但シ第百八十九條ノ期間經過後ニ於テモ之ヲ追加スルコトヲ妨ゲズ

第百九十二條　控訴權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

控訴權ノ拋棄ハ書面ヲ以テ第一審行政裁判所ニ申出デ之ヲ爲スベシ

控訴權ノ拋棄アリタルトキハ第一審行政裁判所ハ之ヲ他ノ當事者ニ通知ス

第百九十三條　控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下グルコトヲ得

控訴ノ取下ハ之ヲ控訴權ノ拋棄ト看做ス

控訴ノ取下アリタルトキハ控訴裁判所ハ之ヲ他ノ當事者ニ通知ス

第百九十四條　被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ニ於テモ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

附帶控訴ニハ控訴ニ關スル規定ヲ準用ス

附帶控訴ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴ガ却下セラレタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件ヲ具備スルモノハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

第百九十五條　控訴ノ提起アリタルトキハ控訴裁判所ノ書記ハ遲滯ナク第一審行政裁判所ノ書記ニ訴訟記錄ノ送付ヲ求ムベシ

第百九十六條　控訴裁判所ハ事實上及法律上ノ點ニ付事件ヲ覆審ス

控訴裁判所ハ終局判決前ニ於ケル第一審行政裁判所ノ總テノ裁判ニ付覆審スルコトヲ得但シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ザル裁判又ハ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ベキ裁判ハ此ノ限ニ在ラズ

第百九十七條　控訴裁判所ニ於ケル辯論ハ當事者ガ第一審判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ於テノミ之ヲ爲ス

第百九十八條　第一審ニ於テ爲シタル訴訟行爲ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第百九十九條　不適當ナル控訴ニシテ其ノ欠缺ガ補正スルコト能ハザルモノナルトキ又ハ控訴人ガ裁判所ノ命ジタル期間內ニ補正ヲ爲サザルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ却下ス

前項ノ判決ハ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百條　控訴裁判所ハ第一審判決ヲ正當ナリトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス

第一審判決ガ其ノ理由ニ於テ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ因リ結果ニ於テ正當ナルトキ亦前項ニ同ジ

第二百一條　控訴裁判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキ又ハ其ノ手續ガ法律ニ違背シタリトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ取消シ事件ヲ第一審行政裁判所ニ差戻ス場合ヲ除クノ外事件ニ付自ラ裁判ヲ爲ス

第二百二條　控訴裁判所ガ第一審判決ヲ取消シタル場合ニ於テ事件ニ付自ラ裁判ヲ爲スコトヲ適當ナラズトスルトキハ更ニ審理ヲ爲サシムル爲ニ事件ヲ第一審行政裁判所ニ差戻スコトヲ得

第一審行政裁判所ニ於ケル訴訟手續ガ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ第一審判決ヲ取消シ事件ヲ第一審行政裁判所ニ差戻シタルトキハ其ノ訴訟手續ハ法律ニ違背シタル部分ニ付之ニ依リテ取消サレタルモノト看做ス

第二百三條　差戻アリタル事件ハ判決前ノ狀態ニ於テ第一審行政裁判所ニ繫屬ス

控訴裁判所ガ第一審判決ノ取消ノ理由ト爲シタル事實上及法律上ノ判斷ハ第一審行政裁判所ヲ羈束ス

第二百四條　控訴審ニ於ケル訴訟完結シタルトキハ控訴裁判所ノ書記ハ判決ノ正本ヲ訴訟記錄ニ添附シ之ヲ第一審行政裁判所ノ書記ニ送付スベシ

第二百五條　前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ニ之ヲ準用ス

第二節　上告

第二百六條　上告ハ左ニ掲グル事件ニ付爲シタル普通行政裁判所ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　訴願ノ裁決又ハ異議ノ決定ニ不服アルニ因リ提起シタル抗告訴訟

二　行政廳ノ裁定又ハ裁決ニ不服アルニ因リ提起シタル當事者訴訟

第二百七條　上告ハ判決ガ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

左ノ場合ニ於テハ判決ハ法令ニ違背シタルモノトス

一　判決裁判所ノ構成ガ法律ニ違背シタルトキ

二　法定代理人、總代又ハ訴訟代理人ガ訴訟行爲ニ付權限ヲ有セザル者ナリシトキ但シ當事者又ハ法定代理人ノ追認アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三　口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ

四　判決ニ理由ヲ附セズ又ハ理由ニ齟齬アルトキ

第二百八條　上告裁判所ハ法律上ノ點ニ付事件ヲ覆審ス

第一審判決ニ於テ適法ニ確定シタル事實ハ上告裁判所ヲ羈束ス

第二百九條　本節ニ規定スルモノノ外上告ニハ控訴ニ關スル規定ヲ準用ス

第三節　故障ノ申立

第二百十條　故障ノ申立ハ行政裁判所ノ決定ニ對シ本法ニ規定アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百十一條　故障ノ申立ハ普通行政裁判所ノ決定ニ對シテハ高等行政裁判所ニ、高等行政裁判所ノ決定ニ對シテハ當該裁判所ニ之ヲ爲スベシ

第二百十二條　故障ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十三條　故障ノ申立ニ對シテハ決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第二百十四條　故障ノ申立アリタルトキハ原決定ハ其ノ執行ヲ停止ス

第二百十五條　故障ノ申立ニ對スル裁判ハ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條　本節ニ規定スルモノノ外故障ノ申立ニハ控訴ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章　再審

第二百十七條　再審ノ訴ハ確定ノ終局判決ニ對シ左ニ揭グル事由アル場合ニ於テ之ヲ提起スルコトヲ得

一　判決裁判所ノ構成ガ法律ニ違背シタルトキ

二　法定代理人、總代又ハ訴訟代理人ガ訴訟行爲ニ付權限ヲ有セザル者ナリシトキ但シ當事者又ハ法定代理人ノ追認アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三　裁判ニ關與シタル行政裁判官ガ事件ニ付瀆職ノ罪ヲ犯シ有罪ノ判決確定シタルトキ

四　判決ニ影響スベキ當事者ノ陳述又ハ證據ノ提出ガ他人ノ脅迫其ノ他刑罰ヲ科セラルベキ行爲ニ因リ妨ゲラレ其ノ者ニ對スル有罪ノ判決確定シタルトキ

五　判決ガ僞造若ハ變造ニ係ル文書其ノ他ノ物件又ハ證人若ハ鑑定人ノ虛僞ノ證言若ハ鑑定ヲ證據ト爲シタルモノニシテ之ニ關スル有罪ノ判決確定シタルトキ

六　判決ノ基礎ト爲リタル民事又ハ刑事ノ判決其ノ他ノ裁判ガ後ノ裁判ニ依リ變更セラレタルトキ

七　判決ガ前ニ言渡サレタル確定判決ト抵觸スルトキ

前項第三號乃至第五號ノ場合ニ於テハ證據欠缺外ノ理由ニ因リ有罪ノ確定判決ヲ得ルコト能ハザルニ至リタルトキ亦同ジ

第二百十八條　再審ノ訴ハ原訴訟ニ於テ當事者タリシ者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得但シ當事者ガ上訴ニ依リ其ノ事由ヲ主張シ又ハ其ノ事由ヲ知リテ主張セザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十九條乃至第百五十二條及第百五十七條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ承繼スルコトヲ得ル者ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當事者タリシ者ト看做ス

第二百十九條　再審ノ訴ハ當該判決ヲ爲シタル行政裁判所ニ之ヲ提起スベシ

第二百二十條　再審ノ訴ハ判決ノ確定後再審ノ事由アルコトヲ知リタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ

提起スルコトヲ要ス但シ判決確定後五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ズ

再審ノ事由ガ判決確定後ニ生ジタルトキハ前項但書ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算スル

前二項ノ規定ハ第二百十七條第一項第二號又ハ第七號ニ掲グル事項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セズ

第二百二十一條　第八十七條及第八十八條ノ規定ハ前條ノ期間ニ之ヲ準用ス

第二百二十二條　再審ノ訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ記名捺印スベシ

一　當事者及法定代理人

二　再審ヲ求ムル判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムル旨

三　不服ノ理由

不服ノ理由ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第二百二十三條　第九十一條乃至第九十六條ノ規定ハ再審ノ訴ノ提起ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　再審裁判所ニ於ケル本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍內ニ於テノミ之ヲ爲ス

第二百二十五條　再審裁判所ハ再審ノ事由アル場合ニ於テモ原判決ヲ正當トスルトキハ判決ヲ以テ其ノ訴ヲ棄却ス

第二百二十六條　普通行政裁判所ノ再審ノ判決ニ對シテハ前章ノ規定ニ依リ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十七條　本章ニ規定スルモノノ外再審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セザル限リ各審級ニ於ケル訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章　訴訟費用

第二百二十八條　訴訟費用ノ負擔ニ付テハ行政裁判所職權ヲ以テ之ヲ裁判ス

行政裁判所ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ其ノ審級ニ於ケル訴訟費用ノ全部ニ付裁判ヲ爲スベシ但シ事情ニ依リ事件ノ一部又ハ中間ノ爭ニ關スル裁判ニ於テ其ノ費用ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

上訴裁判所ガ本案ノ裁判ヲ變更スル場合ニ於テハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲スベシ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ガ其ノ事件ヲ完結スル裁判ヲ爲ス場合亦同ジ

第二百二十九條　訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第二百三十條　當事者ノ懈怠ニ因ル訴訟ノ遲滯、當事者ノ無益ナル主張又ハ證據方法ノ提出其ノ他當事者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ生ジタル訴訟費用ハ其ノ勝訴ノ場合ニ於テモ行政裁判所ハ其ノ全部又ハ一部ヲ之ニ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十一條　訴訟ノ一部ガ勝訴、一部ガ敗訴ナル場合ニ於テハ各當事者ハ行政裁判所ノ定ムル割合ヲ以テ訴訟費用ヲ分擔ス但シ事情ニ依リ裁判所ハ當事者ノ一方ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十二條　訴訟ノ目的ノ消滅ニ因リ當事者ノ請求ヲ棄却スル場合ニ於テハ行政裁判所ハ事情ニ應ジ各當事者ヲシテ訴訟費用ヲ分擔セシムルコトヲ得但シ其ノ消滅ガ當事者ノ一方ノ責ニ歸スベキ事由ニ基クトキハ訴訟費用ハ其ノ當事者ノ負擔トス

第二百三十三條　共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ分擔ス但シ行政裁判所ハ事情ニ應ジ別ニ其ノ負擔ノ割合ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ當事者ト參加人トノ關係ニ之ヲ準用ス

第二百三十四條　法定代理人、總代又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ガ訴訟行爲ニ付權限ヲ有スルコトヲ證明スルコト能ハザルニ因リ訴ヲ却下スル場合ニ於テハ訴訟費用ハ其ノ者ノ負擔トス

第二百三十五條　訴又ハ上訴ノ取下アリタルトキハ行政裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴又ハ上訴ヲ提起シタル者ニ對シ訴訟費用ノ負擔ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定ニ對シテハ二週間內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二百三十六條　訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メザルトキハ其ノ裁判ノ確定ノ後第一審ノ行政裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ其ノ額ヲ定ム

訴訟費用額ノ決定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本竝ニ費用額ヲ證明スベキ書類ヲ行政裁判所ニ提出スベシ行政裁判所ハ決定ヲ爲ス前ニ費用計算書ノ謄本ヲ相手方ニ送達シ一定ノ期間內ニ之ニ對シ意見ヲ陳述シ且費用計算書及費用額ヲ證明スベキ書類ヲ提出スベキ旨ヲ催告スベシ

第一項ノ決定ニ對シテハ二週間內ニ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二百三十七條　訴訟費用額ノ計算ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス但シ同法第十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

行政裁判所ハ書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十八條　費用ヲ要スル行爲ニ付テハ行政裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

當事者ガ行政裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セザルトキハ行政裁判所ハ前項ノ行爲ヲ爲サザルコトヲ得

第四編　强制執行

第二百三十九條　行政裁判所ノ確定判決ガ財産ノ給付ヲ命ズルモノナルトキハ當事者ハ其ノ强制執行ヲ司法裁判所ニ申立テ又ハ執達吏ニ委任スルコトヲ得

前項ノ强制執行ニ付テハ其ノ性質ニ反セザル限リ民事訴訟法ニ依ル

行政裁判所ノ確定判決ハ前項ノ規定ニ依ル民事訴訟法ノ適用ニ關シテハ之ヲ司法裁判所ノ確定判決ト看做ス

第二百四十條　判決ニ付スベキ執行文ニ付民事訴訟法ニ依リ司法裁判所ノ書記ノ行フベキ職務ハ行政裁判所ノ判決ニ付テハ行政裁判所ノ書記之ヲ行フ

第二百四十一條　民事訴訟法第五百條、第五百十九條乃至第五百二十三條、第五百四十五條乃至第五百四十八條ノ規定ニ依リ司法裁判所又ハ其ノ裁判長ノ行フベキ職務ハ行政裁判所ノ判決ノ執行ニ關シテハ行政裁判所又ハ其ノ裁判長之ヲ行フ但シ同法第五百四十七條第四項ノ規定ニ依ル執行裁判所ノ權限ハ之ガ爲ニ妨ゲラルルコトナシ

第二百四十二條　前三條ノ規定ハ決定ニ依ル訴訟費用ノ裁判ニ之ヲ準用ス

第二百四十三條　行政裁判所ノ確定判決ガ私人ニ特定ノ行爲又ハ不行爲ヲ命ズルモノナルトキハ第二百三十九條ノ場合ヲ除クノ外第一審行政裁判所ハ申立ニ因リ行政官廳ニ其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第百條ノ規定ニ依ル決定ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於ケル執行ニ付テハ行政處分ノ執行ノ例ニ依ル

第二百四十四條　行政裁判所ノ確定判決ガ行政廳ニ特定ノ行爲又ハ不行爲ヲ命ズルモノナルトキハ第二百三十九條ノ場合ヲ除クノ外第一審行政裁判所ハ申立ニ因リ主務大臣又ハ監督官廳ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第九十八條又ハ第九十九條ノ規定ニ依ル決定ニ之ヲ準用ス

第二百四十五條　過料ノ裁判ハ第一審行政裁判所ノ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

過料ノ裁判ニ付强制執行ヲ要スルトキハ裁判長ハ之ヲ司法裁判所又ハ執達吏ニ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判長ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ强制執行ニ付テハ其ノ性質ニ反セザル限リ民事訴訟法ニ依ル

第二百四十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第二百四十六條　本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百四十七條　明治二十三年法律第百六號ハ之ヲ廢止ス

第二百四十八條　本法ハ本法施行前ニ生ジタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ舊法ニ依ル行政裁判所

ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ズ

第二百四十九條　本法施行前舊法ニ依リ爲シタル行爲ハ本法ノ施行ニ因リ其ノ效力ヲ失ハズ

第二百五十條　本法施行前ヨリ繫屬スル事件ニ關スル高等行政裁判所ノ審理及裁判ニ付テハ本法中第一審訴訟手續ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ズ

第二百五十一條　本法施行前ヨリ繫屬スル事件ハ本法ノ施行ニ因リ訴訟當事者ヲ變ズルコトナシ

第二百五十二條　舊法ニ依ル行政裁判所ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ高等行政裁判所ニ之ヲ提起スベシ

第二百五十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル高等行政裁判所ノ審理及裁判ニ之ヲ準用ス

第二百五十三條　舊法ニ依ル行政裁判所ノ判決又ハ決定ノ强制執行ニ付テハ仍舊法ニ依ル此ノ場合ニ於テハ高等行政裁判所ヲ以テ舊法ノ行政裁判所ト看做ス

四六　訴願法案

訴願法

第一條　行政廳ノ違法又ハ不當ノ處分ニ依リ權利又ハ利益ヲ侵害セラレタリトスル者ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本法ニ依リ訴願ヲ爲スコトヲ得

第二條　左ニ揭グル事件ニ付テハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外訴願ヲ爲スコトヲ得ズ

一　兵役ニ關スル件

二　戒嚴ニ關スル件

三　官吏、待遇官吏及公共團體ノ吏員ノ身分ニ關スル件

四　陸海軍ノ紀律ニ關スル件

五　學校內ノ紀律ニ關スル件

六　特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル件

七　試驗、檢定、銓衡又ハ檢査ノ結果ニ關スル件

第三條　左ニ揭グル官廳ノ權限ニ屬スル事件ニ付テハ訴願ヲ爲スコトヲ得ズ

一　司法裁判所、軍法會議、檢事、陸海軍檢察官、司法警察官吏、監獄官吏

二　少年審判所、矯正院

三　海員審判所

四　捕獲審檢所

五　懲戒裁判所、文官懲戒委員會、陸軍法務官懲戒委員會、海軍法務官懲戒委員會、公證人懲戒委員會、辨理士懲戒委員會、計理士懲戒委員會

六　會計檢査院

第四條　行政廳ノ處分ガ既ニ完了シ取消ニ依リ其ノ效果ヲ失ハシムルコトヲ得ザルニ至リタル後ニ於テハ其ノ處分ニ對シ訴願ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外處分ヲ爲シタル行政廳ノ直接監督廳ニ之ヲ爲スベシ

第六條　訴願ノ裁決ニ不服アル者ハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外更ニ其ノ上級ノ監督廳ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ノ裁決アリタル事件ニ付テハ更ニ訴願ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條　內閣總理大臣又ハ各省大臣ノ處分ニ對スル訴願ハ處分ヲ爲シタル大臣ニ之ヲ爲スベシ

第八條　行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ベキ事件ニ付テハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條　訴願ハ訴願書ヲ裁決權アル行政廳ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

第十條　訴願書ニハ訴願人ノ氏名、住所及年齡竝ニ訴願ノ趣旨及理由ヲ記載シ訴願人之ニ記名捺印スベシ

訴願書ニハ處分書、決定書又ハ裁決書及證據書類ヲ添附スベシ

訴願ノ理由及前項ノ書類ハ訴願書提出ノ後ニ於テ之ヲ追加スルコトヲ得

訴願書及其ノ附屬書類ニハ係爭ノ處分、決定又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ニ送付スルニ必要ナル謄本ヲ添附スベシ

第十一條　法人ハ其ノ名ヲ以テ訴願ヲ爲スコトヲ得

法人ニ非ザル社團又ハ財團ノ代表者ノ定アルモノニ限リ其ノ名ヲ以テ訴願ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ代表者訴願書ニ記名捺印スベシ

代表者ハ書面ヲ以テ其ノ權限ヲ證明スルコトヲ要ス

第十二條　未成年者又ハ禁治產者ノ訴願ハ其ノ法定代理人ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者ガ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テハ法定代理人訴願書ニ記名捺印スベシ

法定代理人ハ書面ヲ以テ其ノ權限ヲ證明スルコトヲ要ス

第十三條　多數人共同シテ訴願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ中ヨリ三人ヲ超エザル總代ヲ選任シ之ニ其ノ權限ヲ委任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總代訴願書ニ記名捺印スベシ

共同訴願人第一項ノ選任ヲ爲サザルトキハ行政廳ハ期限ヲ定メテ總代ノ選任ヲ命ズルコトヲ得

總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第十四條　訴願ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ代理人訴願書ニ記名捺印スベシ

代理人ハ書面ヲ以テ其ノ權限ヲ證明スルコトヲ要ス

行政廳代理人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得之ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第十五條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外處分ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

處分ヲ受ケザル者ガ訴願ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ期間ハ處分ノ公示アリタル場合ニ在リテハ公示ノ日ヨリ、其ノ公示ナキ場合ニ在リテハ處分アリタルコトヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算ス但シ處分アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタル後ニ於テハ訴願ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條　訴願ノ裁決ニ不服アルニ因リ更ニ上級ノ監督廳ニ訴願ヲ爲ス場合ニ於テハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ訴願ノ裁決ヲ受ケザル者ガ訴願ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　訴願人裁決權アル行政廳ノ所在地ニ住所ヲ有セザルトキハ前二條ノ期間ハ其ノ住所地ト行政廳所在地トノ距離ニ應ジ海陸路百粁毎ニ一日ヲ伸張ス其ノ距離又ハ端數百粁ニ滿タザルモ四十粁以上ナルトキ亦同ジ

第十八條　天災其ノ他訴願人ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ法定ノ期間內ニ訴願ヲ爲スコト能ハザリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル後二週間內ニ限リ仍訴願ヲ爲スコトヲ得

第十九條　訴願書ヲ受領シタル行政廳ガ其ノ事件ニ付權限ヲ有セザルモノナルトキハ之ヲ權限アル行政廳ニ移送シ其ノ旨ヲ訴願人ニ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テハ第十五條、第十六條及前條ノ期間內ニ訴願書ヲ行政廳ニ提出シタル場合ニ限リ法定ノ期間內ニ訴願ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十條　訴願書ガ必要ナル方式ヲ具備セザルトキハ行政廳ハ期限ヲ定メテ其ノ補正ヲ爲サシムルコトヲ得代表者、代理人又ハ總代ノ權限ノ證明ヲ具備セザルトキ亦同ジ

第二十一條　訴願ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルトキハ行政廳ハ裁決ヲ以テ之ヲ却下ス

一　事件ガ法律勅令ニ依リ訴願ヲ許サレタルモノナラザルトキ
二　訴願人ガ訴願ヲ爲スコトヲ得ル者ナラザルトキ
三　法定ノ期間ヲ經過シタルモノナルトキ
四　法定ノ手續ニ違背スルモノナルトキ
五　第十三條第三項ノ規定ニ依ル總代ノ選任又ハ前條ノ規定ニ依ル補正ヲ命ジタル場合ニ於テ訴願人行政廳ノ定メタル期限迄ニ之ヲ爲サザルトキ但シ裁決書發送前ニ之ヲ爲シタル場合ヲ除ク

第二十二條　行政廳訴願ヲ受理シタルトキハ訴願書及其ノ附屬書類ノ謄本ヲ係爭ノ處分、決定又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ニ送付シ期限ヲ定メテ辯明書ヲ差出サシムベシ

辯明書ニハ訴願人ニ送付スルニ必要ナル謄本ヲ添附スベシ

第二十三條　行政廳ハ訴願ノ審理ニ付必要ト認ムルトキハ何時ニテモ期限ヲ定メテ訴願人又ハ係爭ノ處分、決定又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ノ再辯明ヲ求メ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第二十四條　訴願ノ審理ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外書面ニ依ル

第二十五條　行政廳ハ訴願ノ審理ニ付必要ト認ムルトキハ期日ヲ定メテ訴願人及係爭ノ處分、決定又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ノ一方又ハ雙方ヲ召喚シ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政廳ハ其ノ廳ノ職員ヲ代理人トシテ出頭セシムルコトヲ得

口頭審問ハ之ヲ公開セズ

第二十六條　行政廳ハ訴願ノ審理ニ付必要ト認ムルトキハ其ノ適當ト認ムル者ヲ證人又ハ鑑定人トシテ召喚シ之ヲ訊問シ又ハ之ニ鑑定ヲ命ズルコトヲ得

證人及鑑定人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第二十七條　行政廳ハ其ノ廳ノ職員ヲシテ前二條ノ審理ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條　行政廳ハ證據調ヲ他ノ行政廳又ハ司法裁判所ニ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニ依リ司法裁判所ニ於テ行フ證據調ハ民事訴訟法ニ依ル

第二十九條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外係爭ノ處分、決定又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトナシ但シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ訴願人ノ申請ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

執行停止ノ處分又ハ其ノ申請ヲ拒否スル處分ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第三十條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁決書ニハ主文ノ外其ノ理由ヲ附シ行政廳之ニ記名捺印スベシ

第三十一條　訴願ノ裁決書ハ其ノ謄本ニ行政廳ノ印章ヲ捺シ之ヲ訴願人及關係行政廳ニ交付スベシ

第三十二條　訴願ノ裁決ハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外行政廳ガ訴願書ヲ受領シタル日ヨリ六月內ニ之ヲ爲スベシ

已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ行政廳ハ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得但シ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外通ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

期間ヲ伸長シタルトキハ行政廳ハ直ニ其ノ期間ヲ訴願人ニ通知スベシ

第三十三條　主務大臣ヲ除クノ外行政廳ガ前條ノ期間內ニ訴願ノ裁決ヲ爲サザルトキハ訴願人ハ裁決ヲ待タズシテ上級ノ監督廳ニ訴願ヲ爲シ又ハ其ノ事件ガ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノナルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

他ノ法律勅令ニ依リテ爲ス異議ノ申立又ハ訴願ニ付其ノ決定又ハ裁決ヲ爲スベキ期限ノ定アル場合ニ於テ亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テハ異議ノ申立又ハ訴願ニ付請求拒否ノ決定又ハ裁決アリタルモノト看做ス

前三項ノ規定ハ行政廳ガ前條ノ期間經過後第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル訴願又ハ行政訴訟ノ提起前ニ於テ爲シタル決定又ハ裁決ノ效力ヲ妨グルコトナシ

第三十四條　訴願ノ裁決ハ關係行政廳ヲ羈束ス

第三十五條　他ノ法律勅令ニ依リ行政廳ノ處分ニ對シテ爲ス異議ノ申立又ハ訴願ニ付テハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本法ヲ準用ス

第三十六條　本法ニ定ムル期間ノ計算ニ付テハ行政訴訟法ヲ準用ス

附則

第三十七條　本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條　明治二十三年法律第百五號訴願法ハ之ヲ廢止ス

第三十九條　本法ハ本法施行前ニ生ジタル事項ニモ之ヲ適用ス

但シ第三十二條及第三十三條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十條　本法施行前舊法ニ依リ爲シタル行爲ハ本法ノ施行ニ因リ其ノ效力ヲ失ハズ

第四十一條　他ノ法律勅令中同一ノ事件ニ付主務大臣ニ訴願ヲ爲シ又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル旨ノ規定アル事件ニ付テハ本法施行後ハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本法施行前ニ主務大臣ニ爲シタル訴願ノ效力ヲ妨ゲズ此ノ場合ニ於テハ同一ノ事件ニ付行政訴訟

ヲ提起スルコトヲ得ズ

第四十二條　他ノ法律勅令中行政廳ノ處分、決定又ハ裁決ニ不服アルニ因リ訴願ヲ爲ス場合ニ於テ處分、決定又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ訴願書ヲ提出スベキ旨ノ規定アル事件ニ付テハ本法施行後ハ其ノ經由ヲ要セズ直接ニ訴願書ヲ裁決權アル行政廳ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

四七　權限裁判法案

權限裁判法

第一章　權限裁判所

第一條　權限爭議ハ本法ニ依リ權限裁判所之ヲ裁判ス

第二條　權限裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第三條　權限裁判所ニ權限裁判官七人及豫備權限裁判官七人ヲ置ク

第四條　權限裁判官中二人ハ樞密院議長、樞密院副議長又ハ樞密顧問官、二人ハ大審院長又ハ大審院部長タル判事、二人ハ高等行政裁判所長官又ハ高等行政裁判所部長タル行政裁判官、一人ハ東京ニ在職スル勅任文官ニシテ十年以上高等文官ノ職ニ在リタルモノヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

豫備權限裁判官ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ勅命ス

第五條　權限裁判官中一人ヲ權限裁判所長官トシ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

權限裁判所長官ハ權限裁判所ノ事務ヲ統轄ス

權限裁判所長官故障アルトキハ上席ノ權限裁判官其ノ職務ヲ代理ス

第六條　權限裁判官故障アルトキハ權限裁判所長官ハ同一ノ資格ヲ有スル豫備權限裁判官中ヨリ其ノ職務ヲ代理スベキ者ヲ命ズ

前項ノ場合ニ於テ代理スベキ豫備權限裁判官故障アルトキハ第四條第一項ノ資格ヲ有スル者ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ臨時豫備權限裁判官ヲ勅命ス

第七條　權限裁判官及豫備權限裁判官ノ任期ハ五年トス但シ再任ヲ妨ゲズ

權限裁判官又ハ豫備權限裁判官ニ闕員ヲ生ジタル場合ニ於テ補闕ノ爲勅命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在職ス

第八條　權限裁判官又ハ豫備權限裁判官其ノ任命ノ要件タル資格ヲ失ヒタルトキハ退職ス

第九條　權限裁判所ニ書記官及書記ヲ置ク

書記官ハ樞密院書記官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ樞密院屬ノ中ヨリ權限裁判所長官之ヲ命ズ

書記官ハ權限爭議記錄ノ調製及保管ヲ掌リ長官ノ指揮ヲ承ケテ庶務ヲ管理ス

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケテ庶務ニ從事ス

第二章　權限爭議

第十條　訴ノ目的ノ同一ナル事件ガ同時ニ司法裁判所及行政裁判所ノ雙方ニ繫屬スル場合ニ於テハ其ノ何レノ訴訟ニ於テモ訴訟當事者又ハ參加人ハ其ノ事件ガ當該裁判所ノ權限ニ屬スルヤ否ニ付先ヅ裁判ヲ爲スコトヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ司法裁判所及行政裁判所ガ共ニ其ノ事件自己ノ權限ニ屬スル旨ノ裁判ヲ爲シ其ノ判決確定シタルトキハ民事訴訟又ハ行政訴訟ノ當事者又ハ參加人ハ權限爭議ヲ提起スルコトヲ得

第十一條　訴ノ目的ノ同一ナル事件ガ同時ニ司法裁判所及行政裁判所ノ雙方ニ繫屬スル場合ニ於テ其ノ何レカ一方ノ裁判所ガ事件ノ本案ニ付自己ノ權限ニ屬スルモノトシテ裁判ヲ爲シ其ノ判決確定シタルトキハ他ノ一方ノ裁判所ニ繫屬スル訴訟ノ當事者又ハ參加人ハ其ノ事件ガ當該裁判所ノ權限ニ屬スルヤ否ニ付先ヅ裁判ヲ爲スコトヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ガ其ノ事件自己ノ權限ニ屬スル旨ノ裁判ヲ爲シ其ノ判決確定シタルトキハ民事訴訟又ハ行政訴訟ノ當事者又ハ參加人ハ權限爭議ヲ提起スルコトヲ得

第十二條　前二條ノ場合ニ於テ司法裁判所又ハ行政裁判所ガ權限アリト爲シタル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做ス

第十三條　訴ノ目的ノ同一ナル事件ノ本案ニ付司法裁判所及行政裁判所ガ共ニ自己ノ權限ニ屬スルモノトシテ裁判ヲ爲シ其ノ判決確定シタルトキハ民事訴訟又ハ行政訴訟ノ當事者又ハ參加人ハ權限爭議ヲ提起スルコトヲ得

第十四條　訴ノ目的ノ同一ナル事件ニ付司法裁判所及行政裁判所ガ共ニ自己ノ權限ニ屬セズトシテ訴ヲ却下シ其ノ判決確定シタルトキハ民事訴訟又ハ行政訴訟ノ原告又ハ參加人ノ權限爭議ヲ提起スルコトヲ得

第十五條　民事訴訟ノ訴ト行政訴訟ノ訴トニ於テ裁判セラルベキ事項ガ實質ニ於テ同一ナルトキハ第十條乃至前條ノ規定ノ適用ニ關シテハ訴ノ目的ノ同一ナル事件トス

第十六條　權限爭議ハ事件ガ司法裁判所又ハ行政裁判所ノ何レノ權限ニ屬スルカノ點以外ニ出ヅルコトヲ得ズ

第十七條　權限爭議ハ第十條第二項、第十三條及第十四條ノ場合ニ在リテハ最後ノ判決確定シ

タル日ヨリ、第十一條第二項ノ場合ニ在リテハ判決確定シタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第十八條　權限爭議ヲ提起スル者東京市ニ住所ヲ有セザルトキハ前條ノ期間ハ其ノ住所地ト東京市トノ距離ニ應ジ海陸路百粁毎ニ一日ヲ伸長ス其ノ距離又ハ端數百粁ニ滿タザルモ四十粁以上ナルトキ亦同ジ

天災其ノ他當事者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ前條ノ期間內ニ權限爭議ヲ提起スルコト能ハザリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル後二週間內ニ限リ仍權限爭議ヲ提起スルコトヲ得

第十九條　權限爭議ノ提起ハ權限爭議書ヲ權限裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

權限爭議書ニハ事件ノ經過及請求ノ趣旨ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ記名捺印スベシ

代理人ハ書面ヲ以テ其ノ代理權ヲ證明スルコトヲ要ス

前項ノ外權限爭議書ニハ請求ノ理由ヲ述ベ且爭議ノ原因タル判決ノ謄本ヲ添附スベシ但シ法定期間ノ經過後ニ於テモ之ヲ追加スルコトヲ妨ゲズ

權限爭議書ハ民事訴訟及行政訴訟ノ當事者及參加人ニ送達シ且司法裁判所及行政裁判所ニ送付スルニ必要ナル謄本ヲ添ヘテ之ヲ提出スベシ

第二十條　權限爭議ヲ提起スル者ハ書類ノ送達ニ充ツベキ費用トシテ權限爭議書ノ提出ト共ニ必要ナル金額ヲ權限裁判所ニ豫納スベシ

豫納金額及其ノ納付ノ方法ハ權限裁判所長官告示ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條　權限爭議書ガ必要ナル方式ヲ具備セザルトキハ權限裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間內ニ補正ヲ爲スベキコトヲ命ズ豫納金ヲ納付セザル場合ニ於テ其ノ納付ニ付亦同ジ

第二十二條　權限裁判所權限爭議書ヲ受理シタルトキハ權限爭議書ノ謄本ヲ民事訴訟及行政訴訟ノ當事者及參加人ニ送達シ且其ノ判決ヲ爲シタル司法裁判所及行政裁判所ニ送付スベシ

第二十三條　民事訴訟及行政訴訟ノ當事者及參加人ハ前條ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三週間內ニ意見書ヲ權限裁判所ニ提出スルコトヲ得

第二十四條　權限爭議ノ提起アルトキハ爭議ノ原因ト爲リタル司法裁判所及行政裁判所ノ判決ノ强制執行ハ權限裁判所ノ判決アル迄之ヲ停止ス

前項ノ場合ニ於テ權限裁判所ハ民事訴訟又ハ行政訴訟ノ當事者又ハ參加人ノ申立ニ因リ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメズシテ强制執行ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テハ民事訴訟又ハ行政訴訟ノ當事者又ハ參加人ハ權限裁判所ニ對シ權限爭議ノ提起アリタルコトノ證明書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第二十五條　訴ノ目的ノ同一ナル事件ガ同時ニ司法裁判所及行政裁判所ノ雙方ニ繫屬スル場合

ニ於テ事件ノ本案ニ付其ノ一方又ハ雙方ノ裁判所ノ確定判決アリタルトキハ民事訴訟又ハ行政訴訟ノ當事者又ハ參加人ハ當該裁判所ニ對シ其ノ判決ノ强制執行ノ停止ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該裁判所ハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメズシテ强制執行ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

司法裁判所又ハ行政裁判所ノ何レカ一方ノ確定判決ニ付第二項ノ規定ニ依リ爲シタル强制執行停止命令ハ他ノ一方ノ裁判所ニ於テ訴ノ取下アリタルトキ若ハ訴ヲ却下スル判決確定シタルトキ又ハ事件ニ付權限爭議ヲ提起スルコトヲ得ザルニ至リタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第二十六條　民事訴訟法第百十二條、第百十三條、第百十五條及第百十六條ノ規定ハ第二十四條第二項及前條第二項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第二十七條　第二十四條第三項ノ證明書又ハ第二十五條第二項ノ强制執行停止命令ノ提出アリタルトキハ執行機關ハ執行手續ヲ中止スベシ

第二十八條　權限爭議ハ判決前何時ニテモ民事訴訟及行政訴訟ノ當事者及參加人ノ同意ヲ得テ之ヲ取下グルコトヲ得

權限爭議ノ取下ハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ權限裁判所ニ申立テテ之ヲ爲スベシ

第二十九條　權限爭議ノ取下アリタルトキハ權限裁判所ハ直ニ取下通知書ヲ判決ヲ爲シタル司法裁判所及行政裁判所ニ送付スベシ

第三章　裁判

第三十條　權限爭議ノ裁判ハ權限裁判所長官裁判長ト爲リ權限裁判官七人ノ合議ヲ以テ之ヲ行フ

第三十一條　權限裁判官ハ權限爭議ノ原因タル民事訴訟又ハ行政訴訟ニ於テ民事訴訟法又ハ行政訴訟法ニ依リ除斥セラルベキ者ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラル

除斥ノ原因ノ有無ハ權限裁判所之ヲ決定ス

當該權限裁判官ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ズ但シ裁判長ノ許可ヲ得テ意見ヲ述ブルコトヲ妨ゲズ

權限裁判官ハ第一項ノ場合ニ於テハ自ラ回避スルコトヲ得

第三十二條　裁判長ハ一事件毎ニ裁判ノ準備ノ爲權限裁判官ノ一人又ハ二人ニ主査ヲ命ジ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十三條　裁判ノ合議ハ裁判長期日ヲ定メテ之ヲ招集シ其ノ開會及閉會ヲ命ズ

合議ハ裁判長其ノ議事ヲ主宰ス

合議ハ之ヲ公行セズ其ノ議事ハ祕密トス

第三十四條　裁判ノ合議ニ於テハ主査ヲ命ゼラレタル權限裁判官ハ最初ニ事件ノ要旨、爭點及同樣ノ事件ニ關スル判例ニ付報告ヲ爲シ及自己ノ意見ヲ陳述スベシ

第三十五條　裁判ノ合議ハ過半數ヲ以テ決ス

權限裁判官ハ裁判スベキ事件ニ付意見ヲ述ブルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

第三十六條　權限爭議ノ裁判ハ書面審理ニ依ル

第三十七條　權限裁判所ハ審理上必要アルトキハ當該司法裁判所及行政裁判所ニ訴訟記錄ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第三十八條　權限裁判所ハ審理上必要ナル調査ヲ官廳又ハ公署ニ囑託スルコトヲ得

第三十九條　權限爭議ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ權限裁判所ハ判決ヲ以テ之ヲ却下ス

一　事件ガ權限爭議ヲ提起スルコトヲ得ルモノニ非ザルトキ

二　申立人ガ權限爭議ヲ提起スルコトヲ得ル者ニ非ザルトキ

三　代理人トシテ本人ノ爲ニ權限爭議ヲ提起シタル者ガ其ノ代理權ヲ證明スルコト能ハザルトキ

四　法定ノ期間ヲ經過シタルモノナルトキ

五　第二十一條ノ規定ニ依リ權限裁判所ノ命ジタル期間內ニ權限爭議書ノ補正ヲ爲サズ又ハ豫納金ヲ納付セザルトキ

却下ノ判決ハ第二十二條ノ處置ヲ爲サズシテ權限爭議書ニ就キ審査シ直ニ之ヲ爲スコトヲ得

第四十條　權限裁判所ハ第十條第二項、第十一條第二項及第十三條ノ權限爭議ニ在リテハ事件ガ司法裁判所又ハ行政裁判所ノ何レノ權限ニ屬スルカヲ判決シ第十四條ノ權限爭議ニ在リテハ事件ニ付司法裁判所若ハ行政裁判所ノ何レカ一方ガ權限ヲ有スルヤ又ハ共ニ權限ヲ有セザルヤヲ判決ス

第四十一條　判決ハ權限爭議ノ提起アリタル日ヨリ成ルベク二月內ニ之ヲ爲スベシ

第四十二條　判決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

判決書ニハ主文ノ外理由ヲ附シ判決ヲ爲シタル權限裁判官其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スベシ

因リ之ヲ爲スコト能ハザルトキハ他ノ權限裁判官之ニ署名捺印ス權限裁判官故障ニ

第四十三條　判決ハ其ノ謄本ニ權限裁判所ノ印章ヲ捺シ直ニ之ヲ申立人ニ送達シ且權限爭議ノ

原因タル民事訴訟又ハ行政訴訟ノ判決ヲ爲シタル司法裁判所又ハ行政裁判所ニ送付スベシ

司法裁判所又ハ行政裁判所前項判決ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ訴訟當事者及參加人ニ通知スベシ

判決ハ其ノ謄本ヲ申立人ニ送達スルニ依リ效力ヲ生ズ

第四十四條　權限裁判所ノ判決ハ其ノ事件ニ付司法裁判所及行政裁判所ヲ羈束ス

第四十五條　第十條第二項、第十一條第二項及第十三條ノ權限爭議ニ於テ其ノ事件司法裁判所又ハ行政裁判所ヲ羈束スル判決アリタルトキハ之ト抵觸スル他ノ一方ノ裁判所ノ判決ハ其ノ效力ヲ失ヒ其ノ事件ニ對スル訴却下ノ判決確定シタルモノト看做ス

第四十六條　第十四條ノ權限爭議ニ於テ其ノ事件司法裁判所又ハ行政裁判所ノ何レカ一方ノ權限ニ屬ストスル判決アリタルトキハ訴ヲ却下シタル司法裁判所又ハ行政裁判所ノ判決ハ其ノ效力ヲ失ヒ事件ハ判決前ノ訴訟ノ程度ニ於テ再ビ其ノ裁判所ニ繫屬ス

第四十七條　前二條ノ判決謄本ノ提出アリタルトキハ執行機關ハ同條ノ規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル判決ニ因リ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消スベシ

第四章　補則

第四十八條　本法中民事訴訟ニ關スル規定ハ刑事訴訟法ニ依ル私訴ニ之ヲ準用ス

第四十九條　本法ニ定ムル期間ノ計算ニ付テハ行政訴訟法ヲ準用ス

第五十條　本法ニ依リ爲スベキ送達ハ權限裁判所書記官其ノ事務ヲ處理ス

前項ノ外送達ニ付テハ行政訴訟法ヲ準用ス

第五十一條　權限裁判所長官ハ權限裁判所ノ事務取扱ニ付處務細則ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條ノ規定ハ同條第一項ノ判決ガ本法施行前ニ確定シタル場合ニモ之ヲ適用ス

第十三條及第十四條ノ規定ハ判決ガ本法施行前ニ確定シタル場合ニモ之ヲ適用ス

四八　行政裁判官懲戒法案

行政裁判官懲戒法

第一章　總則

第一條　行政裁判官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ懲戒裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ懲戒ス

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ忘リタルトキ

二　職務ノ内外ヲ問ハズ官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フベキ所爲アリタルトキ

懲戒ハ退職ノ行政裁判官ニ對シテモ之ヲ爲ス

第二條　懲戒ノ處分ハ左ノ各號ノ一トス

一　譴責

二　減俸

三　停職

四　免官

前項第二號及第三號ノ處分ハ退職ノ行政裁判官ニハ之ヲ適用セズ

第三條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以内ヲ減ズ

第四條　停職ハ三月以上一年以下職務ノ執行ヲ停止ス

停職中ハ俸給ノ三分ノ二ヲ減ズ

第五條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ズ

第六條　懲戒ニ付セラルベキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ付懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ズ

懲戒裁判所ノ判決前同一事件ニ付刑事ノ追訴開始シタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ル迄懲戒

裁判手續ヲ中止ス

第二章　懲戒裁判所

第七條　懲戒裁判所ハ之ヲ高等行政裁判所ニ置ク

第八條　懲戒裁判所ハ高等行政裁判所長官ヲ加ヘ五人ノ行政裁判官ヲ以テ之ヲ構成シ長官ヲ以テ其ノ長トス

第九條　懲戒裁判所ノ裁判官タルベキ行政裁判官及其ノ故障アル場合ニ於テ之ヲ代理スベキ行政裁判官ハ毎年ノ初ニ於テ高等行政裁判所長官之ヲ定ム懲戒裁判所長故障アル場合ニ於テ之ヲ代理スベキ裁判官ニ付亦同ジ

第十條　懲戒裁判所長ハ高等行政裁判所ノ書記ノ中ヨリ懲戒裁判所ノ書記ヲ命ズ

第三章　裁判手續

第十一條　内閣總理大臣ハ行政裁判官懲戒ニ付セラルベキ事由アリト認ムルトキハ證據書類ヲ添ヘ書面ヲ以テ懲戒裁判所ニ懲戒裁判開始ノ請求ヲ爲スベシ

第十二條　懲戒裁判所ハ内閣總理大臣ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ懲戒裁判ヲ開始スベキヤ否ヲ決定ス

職權ヲ以テ決定スルハ懲戒裁判所長ノ發議ニ依ル

第十三條　懲戒裁判開始ノ決定ハ之ヲ被告ニ送達シ且其ノ謄本ヲ內閣總理大臣ニ送付スベシ內閣總理大臣ノ請求アリタル場合ニ於テ懲戒裁判不開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ謄本ヲ內閣總理大臣ニ送付スベシ

第十四條　懲戒裁判所懲戒裁判開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ判決アル迄被告ノ職務ヲ停止スルコトヲ得

職務停止中ハ俸給ノ三分ノ一ヲ減ズ

第十五條　懲戒裁判開始ノ決定アリタルトキハ懲戒裁判所長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ被告ヲ呼出スベシ

口頭辯論ノ期日ハ之ヲ內閣總理大臣ニ通知スベシ

第十六條　辯論ハ之ヲ公行セズ

第十七條　被告ハ書面ヲ以テ辯論ヲ爲スコトヲ得

被告ハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第十八條　內閣總理大臣ハ委員ヲ命ジテ口頭辯論ニ立會ヒ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第十九條　懲戒裁判所ハ事件ノ辯論既ニ十分ナリトスルトキハ辯論ヲ終結シ合議ノ上判決ヲ爲スベシ

第二十條　判決ハ辯論終結ノ日ニ於テ之ヲ爲スベシ若シ之ヲ爲スコト能ハザルトキハ七日內ニ之ヲ爲スベシ

判決ヲ爲シタルトキハ直ニ其謄本ヲ內閣總理大臣ニ送付スベシ

第二十一條　懲戒ノ判決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第二十二條　本法ニ定ムルモノノ外裁判官ノ除斥忌避及回避、證據調、裁判ノ合議、送達其ノ他裁判手續ニ關シテハ行政訴訟法及行政裁判所法ヲ準用ス

附　則

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ行政裁判所長官及評定官ノ所爲ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ行政裁判官ノ所爲ト看做ス

休職ノ行政裁判所評定官ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ退職ノ行政裁判官ト看做ス

右四四、四五、四六、四七及四八ノ五案ハ孰レモ昭和十二年三月十一日宮古啓三郎君提出ス同月三十一日議事日程ニ上リタルモ議題トナラサリキ

四九　鄕又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案

第一條　明治三年九月十日太政官布告藩制施行以後祿高ヲ有シタル鄕又ハ町村ニシテ其ノ祿高ニ對スル公債證書ノ給與ヲ受ケサル者及其ノ給與ニ不足アル者ニ對シテハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法竝明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シ明治三年九月十日以後ノ祿高ニ對スル公債證書給與未濟額ヲ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ給與ス

第二條　前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以內ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條　前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル日ヨリ六箇月以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十二年三月十三日寺田市正君外三名提出ス同月二十七日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及一六ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第一六參看）議長指名九名ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十八日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月二十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月三十一日議事日程ニ上リタルモ院議ニ上ラサリキ

五〇　刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第二十七條第四項中「及第二十九條」ヲ削ル

第二十九條　削除

第三十條中「前條ノ場合ヲ除クノ外」ヲ削ル

第三十五條第三項但書ヲ削ル

第二百五十六條ノ二　檢事ハ勾留中ノ被疑者ヲ取調フルコトヲ得ス但シ他ノ事件ニ付第二百五十五條第一項ニ規定スル判事ノ書面ニ依ル許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百八十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

檢事ハ公訴ヲ提起シタル事件ノ取調ヲ爲スコトヲ得ス但シ他ノ事件ニ付判事ノ書面ニ依ル許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

右ハ昭和十二年三月十六日牧野賤男君外八名提出ス同月二十九日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及一三、一九ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第一三參看）政府提出裁判所構成法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ニ於テハ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

五一　刑法中改正法律案

刑法中左ノ通改正ス

第二十五條中「二年以下」ヲ「三年以下」ニ改ム

第二十五條ノ二　左ニ記載シタル者罰金ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上三年以下ノ期間內其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一　前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二　前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五年以內ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條中「刑ノ執行猶豫」ヲ「懲役又ハ禁錮ノ執行猶豫」ニ、「前條第二號」ヲ「第二十五條第二號」ニ改ム

第二十六條ノ二　左ニ記載シタル場合ニ於テハ罰金ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一　猶豫ノ期間內更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　第二十五條ノ二第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

右ハ昭和十二年三月十六日牧野賤男君外八名提出ス同月二十七日本案及二〇ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第二〇參看）政府提出裁判所構成法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ニ於テハ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

五二　民事訴訟法中改正法律案

民事訴訟法中左ノ通改正ス

第百九十條第一項但書ヲ削ル

第三百五十九條　削除

第五百十三條第三項中「、第百十五條」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

左ノ場合ニ於テハ供託物ヲ返還ス可シ

一　擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキ

二　擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルトキ

三　擔保ヲ供シタル者ニ勝訴ノ判決確定シタルトキ

四　訴訟ノ完結後擔保ヲ供シタル者カ擔保權利者ニ對シ其權利行使ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ爲シ擔保權利者カ其行使ヲ爲シタルコトヲ二週間以內ニ裁判所ニ疏明セサルトキ

右ハ昭和十二年三月十六日牧野賤男君外八名提出ス同月三十一日議事日程ニ上リタルモ議題トナラサリキ

五三　陪審法中改正法律案

陪審法中左ノ通改正ス

第二條　死刑又ハ無期若ハ長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條　削除

第四條中「前二條」ヲ「第二條」ニ改ム

第五條　削除

第六條中「辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得」ヲ「辭スルコトヲ得」ニ改ム

第十條第一項中「辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得」ヲ「辭スルコトヲ得」ニ改メ同條第二項中「又ハ請求ヲ取下ケ」及同條第三項中「又ハ請求ヲ取下ケ」ヲ削ル

第十一條　削除

第三十九條　削除

第九十五條　削除

第九十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

陪審ノ答申アリタルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

第百一條　被告人ハ上訴ヲ爲スコトヲ得

上訴ヲ爲スコトヲ得ル者ニ付テハ刑事訴訟法第三百七十八條、第三百七十九條及第三百八十三條ノ規定ヲ準用ス

第百二條　陪審ノ評議ノ結果ニ影響アル控訴ノ申立アリタルトキハ前二節ノ規定ニ從ヒ更ニ之ヲ審理スヘシ

陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキ控訴ノ申立アリタルトキハ第一審ニ於ケル陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス

第百三條中「理由アル場合ニ於テ」ノ下ニ「檢事又ハ被告人」ヲ加フ

第百七條　削除

右ハ昭和十二年三月十六日牧野賤男君外七名提出ス同月二十九日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及一七、一八、二二、五三ノ五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第一七參看）政府提出裁判所構成法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ニ於テハ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

五四　觀光地助成法案

觀光地助成法

第一條　本法ニ於テ觀光地ト稱スルハ主務大臣ニ於テ國際觀光委員會ノ議決ヲ經テ指定シタル市及町村ヲ謂フ

第二條　政府ハ前條ノ市及町村カ觀光地ノ交通、保健、保安、經濟等ニ關スル重要施設ヲ爲ストキハ其ノ事業費ニ對シ補助スルコトヲ得

第三條　政府ハ市及町村カ前條ノ事業ノ爲ニ公債ヲ起シタルトキハ其ノ利子ヲ補給スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十二年三月十六日田中好君外一名提出ス同月三十一日議事日程ニ上リタルモ議題トナラサリキ

五五　航空事業奬勵法案

航空事業奬勵法

第一條　航空事業ノ振興及航空思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第三十四條ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル愛國航空奬券ヲ發行スルコトヲ得

前項法人ノ存立期間ハ成立ノ日ヨリ五年トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第二條　愛國航空奬券ハ富籤式ニ依リ券面金額ヲ三圓トシ毎年六回券面金額ヲ以テ發行セラル

ルモノトス

第三條　第一條ノ法人ハ前條ニ依リ發行シタル愛國航空奬券ノ全部ニ付抽籤ヲ以テ當籤奬券ヲ決定シ之ニ一等金五萬圓以下ノ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第四條　愛國航空奬券ノ發行總數、發行ノ時期及形式、抽籤ノ時期及方法、當籤券數竝奬勵金額及其ノ等級ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　第一條ノ法人ハ當籤奬券ト引換ニ奬勵金ヲ支拂フヘシ

第六條　前條ノ奬勵金ノ債權ハ三年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第七條　愛國航空奬券ヲ發行セムトスルトキハ少クトモ發行日ノ二週間前ニ發行總數、發行ノ日時、抽籤ノ日時、當籤券數竝奬勵金額及其ノ等級ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ公表スヘシ

抽籤終リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ結果ヲ公表スヘシ

第八條　第一條ノ法人ノ理事及監事ハ愛國航空奬券ヲ所有スルコトヲ得ス

第九條　第一條ノ法人愛國航空奬券ヲ發行シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ收得金額ノ五分ノ三以內ニ相當スル金額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ納付スヘシ

前項ノ納付金ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ其ノ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十條　第一條ノ法人ハ奬券發行ニ依ル收得金額中前條ノ納付金、奬勵金、奬券發行費及事業經營上必要ナル其ノ他ノ支出ニ充テタル殘額ヲ準備資金トシテ管理スヘシ

前項ノ準備資金カ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ最高額ヲ超過スルトキハ政府ハ其ノ超過額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ納付セシムルコトヲ得

第十一條　前二條ノ納付金ハ之ヲ民間航空事業振興ニ必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス

第十二條　第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メテ主務大臣ノ認可ヲ受ケ每事業年度終了後三月內ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ

第十三條　第一條ノ法人ノ理事及監事ノ就任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ他ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十五條　主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ愛國航空奬券發行ノ停止若ハ制限又ハ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一　第一條ノ法人ニ非スシテ類似ノ奬券ヲ發賣シタル者

二　前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ奬券ヲ發行シタル者

第十七條　第一條ノ法人ノ役員カ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十八條　前條ノ役員ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減免スルコトヲ得

第十九條　第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第一條ノ法人ノ役員カ抽籤ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得シメタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處シ其ノ利益ニ相當スル價額ヲ追徵ス

第二十一條　第一條ノ法人ノ役員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサル者

二　第七條及第十條第一項ノ規定ニ違反シタル者

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十二年三月十八日末松偕一郎君外一名提出ス同月三十一日議事日程ニ上リタルモ議題トナラサリキ

五六　辯護士法中改正法律案

辯護士法中左ノ通改正ス

第二條　帝國臣民ニシテ成年者タル者ハ辯護士タル資格ヲ有ス

第三條第一項中「試補」ヲ削ル

第四條中「前二條」ヲ「前條」ニ改ム

第二十八條　削除

第三十七條　削除

第三十九條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　削除

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リテ辯護士試補タル資格ヲ有スル者ハ本法ニ依ル辯護士タル資格ヲ有ス

右ハ昭和十二年三月二十三日牧野賤男君外六名提出ス同月二十五日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(牧野賤男君)ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

辯護士法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ說明致シマス、本案ハ至極簡單ナ改正デアリマシテ、改正辯護士法ガ辯護士試補ト云フモノヲ新ニ設ケテ、本年四月一日カラ之ヲ實施致スノデアリマス、所ガ辯護士ニ向ッテ試補ヲ拵ヘテ、更ニ一年半何等ノ收入ナシニ事務ヲ修習セシムルト云フコトハ、甚シク事情ニ適シナイ法律デアルコトヲ發見致シタノデアリマス、司法官タル者ガ司法官試補トシテ事務ヲ修習致シマスルコトハ、是ハ司法官ハ與ヘラレタル事件ニ付テ、好ムト好マザルトニ拘ラズ、之ヲ擔任シナケレバナラヌ責任ガアルノデアリマス、隨テ之ニ向ッテ十分修習ヲサセルト云フコトモ、國家トシテハ必要デアリマス、辯護士ハ自由職業デアリマス、自分ノ意ニ適シナイモノハ、之ヲ辭スルコトヲ得ルノデアリマシテ、强制的ニ事件ヲ扱フト云フコトハ、一ツモ觀念セラレテ居ナイノデアリマス、隨テ自分ノ好ム方ヘ向ッテ修習致シ、好マザル方ニ向ッテハ、之ニ手ヲ染メナイト云フ自由ヲ持ッテ居ルノデアリマス、又辯護士トシテ事務ノ修習ガ必要デアリマスルナラバ、卽チ法律學校在學中ニ、之ニ向ッテノ教育ヲ致セバ足リルノデアリマシテ、國家試驗ヲ受ケテ辯護士ト相成ッテ、更ニ一年半他ノ有給ノ職ニ就クコトヲ得ズシテ修習スルト云フコトハ、洵ニ新ニ辯護士ニナル人ニ向ッテ、無用ナ過重ナル責任ヲ課ス次第デアリマシテ、此制度ハ速ニ廢止スル方ガ適當デアラウト思フノデアリマス、尙ホ詳細ハ委員會ニ於テ說明ヲ致シマス、之ヲ以テ提案ノ理由ト致シマス

次テ本案ハ政府提出裁判所構成法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日議事日程ノ順席ヲ變更シテ本案及**一五**、**三五**ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(委員長報告ハ本項第**一五**參看)院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月三十日委員ニ付託シタルモ委員會ニ於テハ審査終了ニ至ラサリキ

五七　中央卸賣市場法中改正法律案

中央卸賣市場法中左ノ通改正ス

第二十九條　本法中主務大臣トハ商工大臣及農林大臣トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十二年三月二十四日八田宗吉君提出ス　同月二十七日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及五九ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者（五九ハ村岡吾一君、五七ハ贊成者菅野善右衛門君）ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

村岡君ノ趣旨辯明

私ハ茲ニ議題トナッテ居リマスル中央卸賣市場法中改正法律案ニ付キマシテ、簡單ニ其提案ノ理由ヲ說明致シタイト思ヒマス、此案ハ中央卸賣市場法ノ中ニ第二十九條ヲ加ヘマシテ、從來此市場ガ商工大臣ノ專管ニナッテ居リマシタモノヲ、農林大臣ト共ニ管轄スルコトニ改メタイト云フノデアリマス、中央卸賣市場法ハ、都市ニ於キマスル蔬菜、果實、魚類、肉類、鳥卵等ノ農產物及ビ水產食料品ノ配給ノ圓滑ト、取引ノ公正ヲ圖ルヲ目的トシテ、大正十二年ニ制定公布セラレマシテ、今東京、横濱、大阪、京都、神戸、高知及ビ鹿兒島ノ各市ニ其開設ヲ見マシテ、一箇年間ノ取扱高ハ約二億圓ニ垂ントスルニ至ッテ居リマス、然ルニ是等中央卸賣市場ノ運營ノ實際ヲ見マスルノニ、市場ノ開設者ハ公共團體デアル市デアリマスルガ、荷主ノ委託ニ依リマシテ卸賣ヲ行フ所ノ、所謂卸賣業者ト云フ者ハ、舊市場ノ問屋ガ老舗權ヲ持寄リマシテ合同シタ單純ナル營利會社デアリマシテ、動モスレバ中央卸賣市場法ノ精神ニ反シテ、生產者ノ利益ヲ侵害スル場合ガ多イノデアリマス、例ヘバ神戸其他ノ中央卸賣市場ニ於キマシテハ、市場內ノ運送荷扱制度ガ不合理デアリマス、東京ノ市場ノ實情ニ就テ見マシテモ、斯ウ云フ實例ガアル、水產物ヲ遠方カラ送リマシテ、ソレガ汐留驛ニ著キマシテ、汐留驛カラ此中央市場ノ引込線ニ依リマシテ賣場ヘ送リマシテ、其荷下シヲ致シマス爲ノ手數料ト云フモノガ、鮮魚ニ付テハ一貫ニ付テ七錢ト云フ多額ノ料金ヲ取ラレテ居ル、餘リ不當ダト云フノデ、一部ノ荷主ガ汐留驛カラ「トラック」ニ下シテ、サウシテ市場ノ賣場迄送ッテ之ヲ糶リニ掛ケルノデアリマスルガ、斯樣ニ引込線ガアルノニ、ソレニ依ラズシテ態〻汐留驛カラ「トラック」ニ積ミマシテ、之ヲ市場內ノ賣場ニ運ブ、サウシテ其費用ハ一箱ニ付テ僅ニ二錢デ濟ムノデアリマス、斯樣ニ一箱二錢デ濟ム卸賣荷扱料ガ、市場內ノ引込線デ持込ンデモ七錢ヲ取ラレルト云フヤウナ、不合理ナ實情ガアルノデアリマシテ、之ニ依ッテ荷主デアルトカ、或ハ消費者デアルト云フモノハ、非常ニ利益ヲ害セラレテ居ルノデアリマス、又最近大阪ノ中央卸賣市場ニ於キマシテハ、卸賣會社ノ糶手ト仲買人ガ結託シテ、市價ヨリモ不當ニ安ク仕切ッタト云フヤウナ例ガアルノデアリマス、或ハ又生產者ノ共同販賣運動ヲ攪亂スルト云フ如キ事モアルノデアリマシテ、斯樣ニ此中央卸賣市場ノ運營ト云フモノハ非常ニ重大ナ關係ガアル新聞ノ報ズル所ニ依レバ、東京ノ卸賣市場ニ關シテモ、此卸賣人ノ數ノ問題ニ付テ、瀆職事件ガ行ハレテ居ルト云フコトデアリマスガ、實ニ斯ノ如キ不合理ナ點ガアルノデアリマス、ソレガ爲ニ農林水產業者ノ被ル不利益ト云フモノハ、非常ニ多イノデアリマシテ、尙ホ進ミマシテハ、是等生產者ノ生產ノ進展ヲ阻碍スル重大ナル結果トナルノデアリマシテ、遺憾ニ堪ヘザル所デアリマス、而シテ從來農村生產者團體ハ、屢〻是等ノ點ニ關シテ卸賣會社ノ反省ヲ促シ、或ハ主務省タル商工省ニ陳情致シマシタケレドモ、改善ノ途ガ講ゼラレナイ、所謂百年河淸ヲ俟ツニ似テ居ルノデアリマス、今回ハ此荷扱料ニ付キマシテハ、小運送業法ノ發布ニ依リマシテ、多少改善セラルヽカモ知レナイト思ヒマスルガ、大體ニ於テ此農產物、水產物、林產物ヲ市場ニ提供シ、消費者ニ配給スル其中間ノ中央市場ガ、所謂商賣本位、搾取本位ト云フヤウナ傾向ニアルト云フコトハ、要スルニ是ハ商工大臣ノ所管デアルカラデアルト思フノデアリマ

ス、ソコデ之ニ生産者側ノ所管省タル農林大臣ヲ加ヘマシテ、サウシテ適當ニ此運營ヲ致シタイ、是ガ本案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒皆サンノ御贊同ヲ求メマス

菅野君ノ趣旨辯明

本法案ハ先ノ村岡君ノ説明セラレマシタ法律案ト同案デアリマシテ、隨テ其理由モ同一デアリマス、村岡君ノ説明セラレマシタ理由ヲ援助致シマスルカラ、滿場ノ御贊成ヲ御願致シマス

次テ兩案ハ一括シテ政府提出輸出補償法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ニ於テハ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

五八　護國共同組合法案

護國共同組合法

第一章　總則

第一條　護國共同組合ハ國民皆兵ノ本議ニ鑑ミ互助共同ニ依リ兵役義務服行ニ必要ナル家庭ノ經濟的準備ヲ整ヘ護國ノ精神ヲ振作スルヲ以テ目的トス

第二條　護國共同組合ハ法人トス

第三條　護國共同組合ノ名稱中ニハ護國共同組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ

護國共同組合ニ非サレハ其ノ名稱中ニ護國共同組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第四條　護國共同組合ニハ所得稅、登錄稅及印紙稅ヲ課セス又地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二章　設立

第五條　護國共同組合ノ地區ハ市區町村又ハ町村組合ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第六條　護國共同組合ハ其ノ地區內ノ世帶主ヲ組合員トス但シ世帶主ニ非サル者又ハ法人モ組合員タルコトヲ得

第七條　護國共同組合ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區內ノ世帶主五十人以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第八條　護國共同組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタルトキニ成立ス

第九條　定款ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　目的

二　事業

三　名稱
四　地區
五　事務所ノ所在地
六　共同金ノ負擔及交付ニ關スル規定
七　役員及組合會ニ關スル規定
八　經理ニ關スル規定
九　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
十　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
十一　其ノ他組合ニ關スル重要ナル事項

第三章　事業

第十條　護國共同組合ハ陸軍又ハ海軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタル者アルトキ組合員ニ對シ共同金ヲ交付シ家業及家事ノ援助ヲ爲シ其ノ他組合ノ目的達成ニ必要ナル事業ヲ行フ

第十一條　共同金ハ左ニ掲クル者陸軍又ハ海軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタルトキ其ノ組合員ニ對シ之ヲ交付ス

一　組合員ト同一ノ家ニ屬スル者

二　組合員ト生計ヲ同クスル親族
三　組合員ト同一ノ家ニ屬シ且生計ヲ同クスル者

護國共同組合ハ其ノ定款ヲ以テ前項第一號及第二號ニ定ムル共同金ヲ受クヘキ場合ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得

護國共同組合ハ前二項ノ規定ニ拘ラス組合會ノ決議ニ依リ組合員ニ對シ共同金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條　共同金ハ普通共同金及特別共同金ノ二種トス

普通共同金ハ家庭ノ事情如何ニ拘ラス均一ノ割合ヲ以テ交付シ特別共同金ハ疾病、災害又ハ家庭ノ情況ニ因リ必要アル場合ニ於テ組合會ノ決議ニ依リ普通共同金ニ併セ交付スルモノトス

第十三條　護國共同組合ハ必要アルトキハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ組合員ノ家業若ハ家事ノ援助又ハ物品ヲ以テ共同金ノ一部又ハ全部ニ代フルコトヲ得

第十四條　交付セラレタル共同金ニ對シテハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

共同金ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十五條　護國共同組合ノ事業ニ必要ナル經費ハ組合員之ヲ負擔スルモノトス

前項ノ負擔ハ定款又ハ組合會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　護國共同組合ハ必要アルトキハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ物品ノ醵出又ハ勞力奉仕ヲ以テ醵金ノ一部又ハ全部ニ代ヘシムルコトヲ得

第十七條　護國共同組合ハ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムル組合員ニ對シ組合會ノ決議ニ依リ前條ニ依ル金品ノ醵出及勞力奉仕ヲ猶豫又ハ減免スルコトヲ得

第十八條　護國共同組合ハ現役ニ服セサル組合員又ハ現役ニ服セサル者ト同一世帶內ニ在ル組合員ニ對シ其ノ故ヲ以テ特別ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十九條　護國共同組合ハ第十條ニ規定スル事業ノ外左記各號ニ關シ組合員ノ指導誘掖ニ努ムルモノトス

一　國民皆兵ノ本義ニ鑑ミ護國ノ精神ノ振作ニ努ムヘキコト

二　自彊ノ精神ニ基キ兵役義務服行ニ伴フ家庭ニ於ケル經濟的準備ノ完整ニ努ムヘキコト

三　隣保相助ノ誼ヲ厚クシ組合ノ定ムル金品ノ醵出及勞力奉仕ハ組合ノ精神ニ鑑ミ進テ之ヲ爲スヘキコト

四　兵役義務者及其ノ家族ヲ敬愛シ其ノ名譽ヲ尊重スヘキコト

五　其ノ他組合ノ目的達成ニ必要ナル精神指導ヲ爲スヘキコト

第四章　役員

第二十條　護國共同組合ニ左ノ役員ヲ置キ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ際ニ於ケル役員ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

理事　若干名

監事　若干名

理事ハ組合長及副組合長各一名ヲ互選ス但シ副組合長ハ必要アル場合ニ於テハ其ノ數ヲ增加スルコトヲ得

役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ケス

役員ハ必要アル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非サル適當ナル者ヨリ選任スルコトヲ得

第二十一條　役員ハ名譽職トス

第二十二條　組合長ハ組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ統轄ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合ノ事務ヲ執行ス

監事ハ組合ノ事務ヲ監査ス

第二十三條　組合事務ノ執行ニ付テハ民法第四十四條第一項、第五十二條第二項及第五十五條ノ規定ヲ準用ス

第五章　組合會

第二十四條　護國共同組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

理事及監事ハ何時ニテモ組合會ニ出席シ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第二十五條　組合會議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

議員ノ定數及選任ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

議員ノ任期ハ二年トス

第二十六條　組合會議員ハ名譽職トス

第二十七條　組合會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合長之ヲ招集ス

第二十八條　組合會ハ左ニ掲クル事項ヲ議決ス

一　組合定款ノ改廢ヲ爲スコト

二　年度收支豫算ヲ定ムルコト

三　組合事業ノ報告及決算報告ヲ認定スルコト

四　財產ノ管理、處分及取得ニ關スルコト

五　其ノ他本法ニ依リ組合會ノ權限ニ屬セシメタル事項又ハ組合長ニ於テ付議シタル事項

前項第一號ニ掲クル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十九條　組合會ハ組合長ヲ以テ議長トス組合長故障アルトキハ副組合長又ハ其ノ他ノ理事議長ノ職務ヲ代理ス

第三十條　組合會ハ組合會議員ノ半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス但シ招集再度ニ及フモ尙半數ニ達セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合會ノ議事ハ出席議員ノ全員ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六章　經理

第三十一條　護國共同組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第三十二條　組合事務費ハ每年度組合員醵金ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十三條　護國共同組合ハ基本金ヲ積立ツルコトヲ得

第七章　解散

第三十四條　護國共同組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生
二　組合會ノ決議
三　組合ノ合併
四　組合員ガ三十人未滿ニ減シタルトキ
五　組合ノ破産

組合ノ解散及合併ハ組合會議員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條　合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條　組合會ノ決議ニ因ル解散又ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十八條　民法第七十條ノ規定ハ護國共同組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章　清算

第三十九條　清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第四十條　清算人ハ就職後遲滯ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作リ之ヲ組合會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十一條　清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ズ

第四十二條　清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ之ヲ組合會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十三條　清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第四十四條　重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四十五條　清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ

第四十六條　清算結了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第四十七條　民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ護國共同組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章　監督

第四十八條　護國共同組合ハ第一次ニ北海道廳長官及府縣知事、第二次ニ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣之ヲ監督ス

第四十九條　監督官廳ハ組合ニ對シ組合ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合事務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ組合ノ定款、細則、收支、豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條　監督官廳ハ組合會ノ決議又ハ役員ノ行爲カ適當ナラスト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解任シ又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ本法第一條ニ揭クル目的ヲ以テ設立セラレタル組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

右ハ昭和十二年三月二十四日池田秀雄君外二名提出ス同月二十七日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及二八ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第二八參看）政府提出防空法案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末本案及二八ノ兩案ハ併合シ修正スヘキモノト決シ三月二十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十九日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及二八ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ（委員長報告ハ本項第二八參看）院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月三十日委員ニ付託シタルモ委員會ニ於テハ審査終了ニ至ラサリキ

五九　中央卸賣市場法中改正法律案

中央卸賣市場法中左ノ通改正ス

第二十九條　本法中主務大臣トハ商工大臣及農林大臣トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十二年三月二十五日土屋寬君外一名提出ス同月二十七日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及五七ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第五七參看）政府提出輸出補償法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ニ於テハ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

六〇　家事調停法案

家事調停法

第一條　離婚、私生子ノ認知、扶養ノ請求、婚姻豫約不履行ニ基ク慰藉料ノ請求其ノ他家事關係ニ付紛議ヲ生シタルトキハ當事者ハ其ノ住所ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條　調停ノ申立ハ紛議ノ實情及求メムトスル要旨ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　家事關係ノ紛議ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス必要ニ應シ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ請求ニ依リ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得

第四條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ事件カ調停ニ付セラレタルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第五條　裁判所ハ期日ヲ定メ調停申立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得當事者亦之カ參加ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六條　當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

第七條　調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許可スルコトヲ得

第八條　申立其ノ他ノ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申立ノ趣旨複雜ナル場合ハ申立人ヲシテ十分其ノ趣旨ヲ明ナラシムル爲裁判所書記ヲシテ其ノ要旨ヲ聽取ラシムルコトヲ要ス

第九條　調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十條　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開キ事件ヲ之ニ付議スヘシ

第十一條　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條　調停主任ハ家事事件ノ調停ニ適當ト認ムル判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ家事問題ニ付特別ノ知識經驗アル者ニ就キ廣ク各方面ノ男女中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第十三條　調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者又ハ專門ノ知識アル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第十五條　調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第十六條　調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第十七條　調停委員會ハ當事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且當事者ノ要求アリタルトキ又ハ必要ト認メタルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

第十八條　期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ紛議ノ目的タル事項及手續ノ費用ニ付適當ト認ムル調停條項ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ當事者ニ送付スルコトヲ要ス

當事者カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後二十日以內ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ依リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

當事者カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條　調停成リタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ當事者カ調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十條　裁判所ハ調停カ著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條　調停ノ申立ヲ爲スニハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第二十二條　調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正當ノ理由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ百圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　本法ノ調停ニ關シテハ借地借家調停法第四條、第九條、第十一條、第十三條、第十八條、第二十三條第二項乃至第四項、第二十八條、第三十條及第三十一條ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十二年三月二十六日坂東幸太郎君外四名提出ス同月三十一日議事日程ニ上リタルモ議題トナラサリキ

六一　産師法案

産師法

第一條　産師トハ助産ヲ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條　産師タラムトスル者ハ年齡二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ內務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一　高等女學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ內務大臣ノ指定シタル産師學校ヲ卒業シタル者

二　外國ノ産師學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ産師免許ヲ受ケタル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

三　産師試驗ニ合格シタル者

産師試驗ハ內務大臣之ヲ行フ

産師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　聾者、啞者、盲者又ハ精神病者ニ對シテハ産師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ産師ノ免許ヲ爲ササルコトアルヘシ

第四條　産師ハ姙婦、産婦、褥婦又ハ胎兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ處置ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　産師ハ自ラ臨産又ハ檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第六條　産師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上技能、經歷又ハ命令ノ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　産師ハ産簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第八條　産師ハ産師會ヲ設立スヘシ

産師會ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　産師第三條第一項ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

産師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ處分ハ內務大臣之ヲ行フ但シ第二項ノ處分及第三項ノ再免許ヲ爲ス場合ハ中央衞生

會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十條　第二條ノ免許ヲ受ケスシテ助産ノ業ヲ爲シタル者又ハ第四條乃至第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス業務停止中ノ産師ニシテ助産ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前産婆名簿ニ登錄セラレタル者ハ本法ニ依リ産師ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期限ヲ定メテ假ニ産婆ノ業ヲ免許セラレタル者ハ本法施行後ト雖尚其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ産婆名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後五箇年以內ニ從前ノ規定ニ依リ産婆名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第二條ノ規定ニ拘ラス産師ノ免許ヲ受クルコトヲ得

右ハ昭和十二年三月二十七日盛島明長君外四名提出ス同月二十九日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及一四、一三ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ（本項第一四參看）小西和君外七名提出建築士法案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ニ於テハ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

第五項　上奏案及建議案

第一　上奏案

一　開院式　勅語奉答文案

右議案ノ議事經過ハ第二章第一節ニ詳記セルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

第二　建議案

一　國立劇場建設ニ關スル建議案

國立劇場建設ニ關スル建議

皇紀二千六百年ヲ迎ヘ我カ國文化的新紀元ヲ確立セムトスルニ際シ文化史ノ中核ヲ形造ル演劇藝術ニ對シ之カ保護ト向上トニ寄與セムカ爲政府ハ速ニ國立劇場ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十六日内ヶ崎作三郎君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及三七ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト内容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二　農家世襲財産制度制定ニ關スル建議案

農家世襲財産制度制定ニ關スル建議

古來我カ國ハ農ヲ以テ國本ト爲ス畏クモ宮中ニ於カセラレテハ稻作養蠶ノ諸設備ヲ置カセラレ聖上御躬ラ御作業遊ハサルト拜承ス感激ニ堪ヘサル所ナリ

然ルニ近時農民ノ困憊年ト共ニ深刻ヲ加ヘ今ヤ樂土安住ノ氣分地ヲ拂ヒ日夜不安ト焦躁ノ中ニ喘キ殆ト生氣ヲ見サル狀態ナリ若夫レ今ニシテ之カ對策ヲ確立セサラムカ或ハ虞ル遂ニ國本ノ壞滅ヲ招來スルヲ洵ニ深憂ニ堪ヘサル所ナリ而シテ之カ對策ハ一ニ農家世襲財産制度ヲ制定シテ鄕土安住ノ基礎ヲ確立シ以テ農村ノ崩壞ヲ防止スルニアリト確信ス仍テ政府ハ速ニ本制度ヲ制定シ全農民カ永遠ニ安堵スルノ計ヲ樹立セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十六日林平馬君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

三　狩獵法改正ニ關スル建議案

狩獵法改正ニ關スル建議

政府ハ農林産業上ノ見地ヨリ有益鳥獸ヲ保護シ且其ノ濫獲ヲ防キ密獵防止ノ不徹底ヲ匡正シ以テ此等鳥獸類ノ增殖ヲ圖ルノ必要アリ然ルニ近時我カ國民生活安定ニ關スル國費並國防費ノ增

大ニ因リ此等ノ施設ヲ爲スヘキ狩獵改善ニ要スル國費增加不可能ノ現狀ニ鑑ミ速ニ狩獵法ヲ改正シ空氣銃ヲ本法ノ適用下ニ置キ以テ密獵ヲ防止シ團體施設ノ强化ニ依リ狩獵ヲ統制シ有益鳥獸及狩獵鳥獸ノ保護增殖ヲ圖リ國家福利ノ增進ヲ致シ併テ獵獲物ノ增加ヲ計ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十七日川崎克君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及二三、二九ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

四　水產金庫設立ニ關スル建議案

水產金庫設立ニ關スル建議

政府ハ水產業者ニ對スル金融ノ圓滑ヲ圖リ斯業ノ發達國富ノ增進ニ寄與スル爲水產金庫設立ニ關スル調査ヲ遂ケ案ヲ具シテ次期帝國議會ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十八日鵜澤宇八君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及四八ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「水產國策ノ確立ニ關スル建議」ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

水產國策ノ確立ニ關スル建議

政府ハ左記各項ヲ根幹トシ速ニ水產ニ關スル國策ヲ確立セラレムコトヲ望ム

一　沿岸漁業ノ調整ヲ圖リ併テ漁業資源ヲ保護培養スヘキ施設ヲ整備スルコト

二　水產業者ニ對スル金融ノ圓滑ヲ圖リ斯業ノ發達國富ノ增進ニ寄與スル爲水產金庫設立ニ關スル調査ヲ遂ケ案ヲ具シテ次期帝國議會ニ提出スルコト

三　海洋漁業ニ關スル施設ヲ擴充シ大ニ之カ振興ヲ促スコト

四　水產ニ關スル教育ヲ刷新シ斯業ノ科學的發達ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコト

右建議ス

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建

議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五　阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案

阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議

政府ハ廣島縣吳線安藝阿賀驛ヨリ山陽本線西條驛ヲ經テ藝備鐵道志和口驛ニ至ル鐵道ヲ速ニ敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十八日山道襄一君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及一乃至四、五乃至五六、五八乃至一九三、一九五乃至二四六ノ二百四十四件ヲ一括シテ會議ニ付シ委員長飯村五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程ニ相成リマシタル建議案ニ對シ、委員會ノ審査ノ經過並ニ結果、及ビ其狀況ヲ極メテ簡潔ニ御報告申上ゲマス、今期議會ニ提出致サレマシタル建議案ノ總數ハ二百四十六件デアリマス、最近ニナイ極メテ多數ノ案件デアッタノデアリマス、是ガ審査ノ方法ト致シマシテハ、先例ニ從ヒ二分科ヲ設ケマシテ、各分科ニ於テ各〻二回ヅヽ、會議ヲ開キマシタ、第一分科主査ハ淺川浩君、第二分科ノ主査ハ鈴木辰三郎君デゴザイマス、總會ヲ開クコト前後六回ニ及ビマシタ、建議案ノ提出件數ニ比シマシテ、開會度數ガ極メテ僅少デアリマス、是ハ速記等ノ都合モアリマシタノデアリマスガ、甚ダ遺憾千萬デアッタノデアリマス、審査ノ結果ハ、原案通リ可決致シマシタモノガ百六十三件、原案ヲ修正致シマシタモノガ五件、二案ヲ併合シ一案ト爲シ、修正可決ト相成リマシタモノガ二十四件デアリマス、三案ヲ併合シ一案ト爲シ、修正可決セラレマシタモノガ、八件デアリマス、更ニ亦四案ヲ併合シ一案ト爲シ、修正可決セラレマシタモノガ一件、他ニ愼重審議ノ結果議決ニ至ラナカッタモノガ一件デアリマス、並ニ提案者ヨリ審議ノ延期ヲ申出デラレタ爲ニ、審議未了ニ終リマシタモノガ一件デアリマス、建議案ヲ各所管別ニ見マスルト、一番多數ヲ占メマシタモノガ鐵道省所管ノ八十件、全體ノ三分ノ一ノ多數ヲ占メテ居リマス、次ハ內務省所管ニ屬スルモノガ六十七件、文部省及ビ農林省ノ各〻二十六件ノ順序ニ相成ッテ居リマス、是等ノ議案ハ、各提案者ノ趣旨辯明ヲ聽キマシテ、之ニ對スル政府ノ所見ヲ求メ、各委員ノ熱心ナル審議ノ結果、以上御報告ヲ申上ゲマシタ通リ議決ニ相成ッタノデアリマス、此際一言致シマスルコトハ、建議ハ憲法第四十條及ビ議院法第五十二條ニ基ク議院ノ權能デアリマス、而モ極メテ嚴肅ナル重要ナル案件デアリマスニモ拘ラズ、從來ノ例ヲ見マスルト云フト、甚ダ遺憾ニ感ズル點ガ少クナイノデアリマス、今日建議常任委員ヲ設置セラレマシテ、是ガ審査ニ當ッテ居リマスノハ、卽チ此嚴肅重要ナル案件ナルガ爲メデアリマス、然ルニ私ノ淺キ議員生活ニ於ケル經驗デアリマスルガ、每年每議會每ニ數百件ノ建議案ガ可決サレ、本院ヲ通過スルニ拘ラズ、可決サレタルソレ等ノ建議案ノ成行ハ、果シテ如何ニナッテ居ルデアリマセウカ、少カラズ私共ト致シマシテハ不安ヲ感ジテ居ッタノデアリマス、カルガ故ニ此見地ニ於テ、私共ハ先ヅ本建議案ノ審議ヲ進メル前提ト致シマシテ、政府ニ對シマシ

テ、今日マデ年々通過シタル數百件ノ建議案ノ成行、即チ建議案ノ處理經過報告如何ト云フコトニ付キマシテ、先ヅ、ソレ〴〵政府當局ニ對シマシテ調査報告ヲ求メタノデアリマス、之ニ對シマシテハ遲レバセデハアリマシタガ、再三催促ノ結果、各所管ヨリソレ〴〵處理經過報告ニ接シタノデアリマス、提出セラレマシタル、過去六十一議會以來今日マデノ建議ノ處理經過狀況ヲ見マスルト云フト、遺憾デハアリマスルガ、滿足致シ兼ネル節ガ頗ル多イノデアリマス、今後トモ苟モ本院ヲ通過シ、院議ト相成リマシタル建議ニ對シテハ、政府當局ハ速ニ實現ニ付テ、深甚ナル注意ヲ喚起致サザルヲ得ナイノデアリマス、二百四十四件ノ多數ノ建議案ノ內容等ニ付キマシテハ、一々之ヲ申上グル煩ヲ省キマシテ、全部速記錄ニ御讓リヲ致シマス、何卒總テノ案件ニ對シマシテ、委員會ノ決定通リ、本會議ニ於カレマシテモ、御贊成アラレンコトヲ切望致スノデアリマス

次テ議長ハ右二百四十四案ノ內委員會ノ報告ハ一〇〇、一〇一、一二六及一四七ノ四案ヲ併合シテ一案ト爲シ、三、一三及二九、一一、一二及一四、九九、一二五及一四六、九、三六及六八、一一八、一一九及一三三、三九、一二四及二二〇、一七一、一九三及二三二、八八、一四五及一八八ハ各三案ヲ併合シテ一案ト爲シ、一四九及一五〇、一七五及一八五、一五三及一五四、一及三七、二七及一九一、一〇及一九、一〇五及二四三、四一及四九、七九及二三八、三一及一八一、四〇及八五、一二二及一六四、一五九及一八四、一二〇及一三一、六九及一一六、一四一及一七四、八七及二三一、四及四八、一七七及二〇二、二三及二〇五、三四及一一四、一一五及二二二、一五八及一六五、三八及五四ハ各二案ヲ併合シテ一案ト爲シ、五九、七〇、九〇、一九九、二〇〇ハ孰レモ修正、其ノ他ノ百六十三案ハ各可決スヘキモノト決シタル旨ヲ告ケ院議異議ナク孰レモ委員會報告ノ通議決ス仍テ本案ハ即日政府ニ呈出セリ

六　木曾川下流增補工事促進ニ關スル建議案

木曾川下流增補工事促進ニ關スル建議

岐阜、愛知、三重ノ三縣ニ關係ヲ有スル木曾川下流增補工事ハ工事費五百六十七萬圓ヲ以テ政府ノ直轄事業トシテ昭和十一年度ヨリ施行スルコトト爲リタルモノナレトモ工期二十箇年ヲ要シ昭和三十年度ニ非サレハ竣功ヲ見ルコト能ハサルモノナリ斯ノ如ク工期久シキニ及フコトハ沿岸民ノ堪ヘ難キ所ニ付政府ハ工期ノ短縮ヲ計リ十箇年以內ニ工事ノ完成ヲ圖ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十八日伊藤東一郎君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建

議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

七　寶曆治水工事史蹟油島千本松指定保存ニ關スル建議案

寶曆治水工事史蹟油島千本松指定保存ニ關スル建議

寶曆治水工事ハ濃尾勢三國八郡三百二十九箇町村百萬住民ノ死活ニ關スル大工事ニシテ薩摩藩主島津重年ハ國土保安、窮民救濟ノ大義ニ則リ彈壓的幕命ヲ甘受シテ路程三百里外ノ地ニ一千有餘ノ藩士ヲ派遣シ多年ノ日子ト巨額ノ藩帑ト百餘名ノ貴重ナル生命トヲ犧牲トシ苦心慘憺遂ニ木曾、揖斐、長良三大川治水ノ大工事ヲ竣工セシメタルモノナリ油島千本松ハ該工事中ノ最大難工事ト目セラレタル岐阜縣海津郡大江村大字油島新田地先木曾、揖斐兩川締切工事ノ遺蹟ナレハ政府ハ史蹟名勝天然紀念物保存要目第七產業土木ニ關スル重要ナル史蹟トシテ之ヲ指定保存セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十八日伊藤東一郎君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

八　大阪市內貫通西成線高架改築ニ關スル建議案

大阪市內貫通西成線高架改築ニ關スル建議

省線西成線ハ大阪築港ニ臨ミ軍事ニ經濟ニ重要ナル使命ヲ帶ヒ其ノ機能ヲ十分ニ發揮シツツアリ然ルニ同線ハ街衢錯雜、人家密集セル繁華街ヲ貫キ殊ニ最近「ガソリンカー」ノ運轉ニ依リ運轉回數ノ激增ヲ來シ爲ニ多數ノ踏切ハ繁激ナル交通ヲ阻害シテ不測ノ損害ヲ與ヘ或ハ人命ノ危險ニ曝サルルモノ亦少カラス殊ニ中央市場引込線ノ市街路及市電車線ヲ橫斷交叉スルアリ民衆ノ被ル不利不便洵ニ甚大ナルモノアリ政府ハ曩ニ城東線及東海道線ノ高架改築ヲ斷行シテ市民ノ福利增進ニ資セラレ今ヤ本線ト一部併行セル阪神電車線モ近ク高架ニ改築セラレムトス此ノ秋ニ當リ西成線ノ高架改築決行ハ沿線住民ハ勿論汎ク大阪市民ノ願望シテ已マサル所ナリ故ニ

政府ハ本線ノ重要性ニ鑑ミ之ヲ旅客並貨物輸送ニ最適切ナルヤウ高架改築ヲ實現シ以テ大阪市ノ發展ト市民ノ福祉增進トニ貢獻セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十九日塚本重藏君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

九　小倉ヨリ後藤寺甘木太刀洗ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議案

小倉ヨリ後藤寺甘木太刀洗ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議

政府ハ鹿兒島本線小倉驛ヨリ分岐シ伊田、後藤寺、大隈等ノ筑豐炭田地ヲ縱斷シ秋月、甘木、太刀洗、小郡ヲ經テ鳥栖驛ニ至ル九州中央幹線鐵道ヲ速ニ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十九日片山秀太郎君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及三六、六八ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ、表題ヲ「小倉ヨリ後藤寺上山田甘木太刀洗ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議」ニ改メ修正スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

小倉ヨリ後藤寺上山田甘木太刀洗ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議

政府ハ鹿兒島本線小倉驛ヨリ分岐シ伊田、後藤寺、上山田、大隈等ノ筑豐炭田地ヲ縱斷シ秋月、甘木、太刀洗、小郡ヲ經テ鳥栖驛ニ至ル九州中央幹線鐵道ヲ速ニ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

一〇　岐阜地方裁判所並同區裁判所改築ニ關スル建議案

岐阜地方裁判所並同區裁判所改築ニ關スル建議

政府ハ速ニ岐阜地方裁判所及同區裁判所ヲ改築セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十九日大野伴睦君提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一九ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

一一　協同組合活動促進ニ關スル建議案

協同組合活動促進ニ關スル建議

政府ハ時局ニ鑑ミ工業組合、商業組合、產業組合、漁業組合等ノ協同組合ヲ普及擴充セシメ其ノ活動ヲ促進スル爲適正ナル指導監督ヲ行フト共ニ一層各般ノ奬勵保護ニ關スル施設ヲ擴大セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月十九日助川啓四郎君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一二、一四ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員會報告並議事經過及結果ハ本項第二（五）參看）

一二　協同組合活動促進ニ關スル建議案

協同組合活動促進ニ關スル建議

政府ハ時局ニ鑑ミ工業組合、商業組合、產業組合、漁業組合等ノ協同組合ヲ普及擴充セシメ其ノ活動ヲ促進スル爲適正ナル指導監督ヲ行フト共ニ一層各般ノ奬勵保護ニ關スル施設ヲ擴大セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日三宅正一君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一一、一四ノ三案ヲ

併合シテ一案ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト内容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ

（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

一三　鶴群ノ保護並觀賞施設ニ關スル建議

鶴群ノ保護並觀賞施設ニ關スル建議案

鹿兒島縣出水郡三笠村米ノ津町野田村高尾野町ヲ包含セル荒崎田圃ノ天然紀念物指定地域及禁獵區並大野原一帶ニ群遊セル鶴ニ對シ國家ハ積極的保護ヲ加フルト同時ニ之カ研究觀賞ニ便ナラシムルヤウ相當ノ設備ヲ完成セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日岩元榮次郎君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ

（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

一四　協同組合活動促進ニ關スル建議

協同組合活動促進ニ關スル建議案

政府ハ時局ニ鑑ミ工業組合、商業組合、產業組合、漁業組合等ノ協同組合ヲ普及擴充セシメ其ノ活動ヲ促進スル爲適正ナル指導監督ヲ行フト共ニ一層各般ノ奬勵保護ニ關スル施設ヲ擴大セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日喜多壯一郎君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一一、一二ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト内容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案

外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

一五　鼠ケ關漁港修築ニ關スル建議案

鼠ケ關漁港修築ニ關スル建議

政府ハ速ニ山形縣鼠ケ關ニ漁港トシテノ諸設備ヲ施スヘク速ニ之カ計畫ヲ樹テラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日奥山龜藏君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

一六　兵役者家族扶助ニ關スル建議案

兵役者家族扶助ニ關スル建議

兵役義務ニ服スル爲ニ其ノ家族ヲ生活難ニ陷ラシムルハ皇軍ノ志氣ヲ阻害スルノ嫌アルノミナラス國民ノ俱ニ忍フ能ハサル所ナリ仍テ政府ハ現下ノ社會情勢ニ鑑ミ速ニ之カ扶助ノ途ヲ講セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日堀内良平君外五名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

一七　計理士制度改正調査委員會設置ニ關スル建議案

計理士制度改正調査委員會設置ニ關スル建議

政府ハ計理士制度改正ニ關シ廣ク内外ノ資料ヲ調査シ愼重審議セシメムカ爲計理士制度改正調

査委員會ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日松田竹千代君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

一八　岐阜市内貫通國有鐵道高架改築ニ關スル建議案

岐阜市内貫通國有鐵道高架改築ニ關スル建議

岐阜市ハ近時商工業殷盛ヲ極メ市勢ハ異常ナル膨脹發展ヲ爲シ及隣接町村ノ併合ニ依リ市域擴大シ殊ニ遊覽都市トシテ交通運輸頻繁ヲ極ムルニ至レリ而シテ國有鐵道ハ市ノ南部ト加納町トノ境界ヲ東西ニ貫通シ岐阜市ヲ中心トスル國縣道ハ鐵道ヲ横斷シ線路踏切ハ岐阜驛ノ東西ニ七箇所アリ交通ノ危險竝市民ノ被ル不便甚大ナルノミナラス鐵道機能ヲ全ウスルコト能ハサルナリ仍テ政府ハ速ニ之ヲ高架線ニ改築セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日清寛君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

一九　岐阜地方裁判所竝同區裁判所改築ニ關スル建議案

岐阜地方裁判所竝同區裁判所改築ニ關スル建議

政府ハ速ニ岐阜地方裁判所及同區裁判所ヲ改築セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日清寛君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一〇ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

二〇　岐阜驛ヨリ美濃町若ハ美濃關ニ至ル鐵道速成ニ關スル建議案

岐阜驛ヨリ美濃町若ハ美濃關ニ至ル鐵道速成ニ關スル建議

越美線ハ岐阜縣下ヲ南北ニ縱斷シ越前國福井市ニ至ル線路ナルモ太田町ヲ基點トスルヲ以テ岐阜縣廳ノ所在地タル岐阜市ト縣下ノ北部トノ交通ハ美濃太田驛ヲ經由セサルヘカラス爲ニ二十粁餘ノ迂回トナリ交通上經濟上不利不便ナルノミナラス岐阜市ト福井市トヲ連絡セムトスル本鐵道建設ノ目的ニ反ス仍テ政府ハ本線ノ基點ヲ岐阜市ニ改メ岐阜市ヨリ美濃町若ハ美濃關ニ至ル直通線路ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日淸寬君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

二一　岐阜驛ニ地下道開鑿ニ關スル建議案

岐阜驛ニ地下道開鑿ニ關スル建議

岐阜縣廳ヨリ愛知縣廳ニ至ル國道十二號線及十三號線ハ一般交通上軍事上極メテ重要ナル國道ナルモ國有鐵道東海道線及岐阜驛ニ遮ラレ交通甚シク不便且危險ニシテ而モ鐵道運輸ノ經濟上極メテ不利ナルヲ以テ政府ハ岐阜驛ニ右國道ヲ直通スル連絡地下道ヲ急速ニ開鑿セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日淸寬君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建

議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二二 衞生省設置ニ關スル建議案

衞生省設置ニ關スル建議

政府ハ速ニ衞生省ヲ設置シテ各省ニ分屬スル保健衞生ニ關スル施設ヲ統一シ且之ヲ擴大シテ其ノ機能ヲ全ウセラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日大野伴睦君提出ス委員會ハ審査ノ末本案及二〇五ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「衞生保健ノ爲獨立省設置ニ關スル建議」ニ改メ修正スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

衞生保健ノ爲獨立省設置ニ關スル建議

政府ハ速ニ衞生省若ハ保健省ヲ設置シテ各省ニ分屬スル保健衞生ニ關スル施設ヲ統一シ且之ヲ擴大シテ其ノ機能ヲ全ウセラレムコトヲ望ム

右建議ス

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二三 狩獵法改正ニ關スル建議案

狩獵法改正ニ關スル建議

政府ハ農林産業上ノ見地ヨリ有益鳥獸ヲ保護シ且其ノ濫獲ヲ防キ密獵防止ノ不徹底ヲ匡正シ以テ此等鳥獸類ノ增殖ヲ圖ルノ必要アリ然ルニ近時我カ國民生活安定ニ關スル國費竝國防費ノ增大ニ因リ此等ノ施設ヲ爲スヘキ狩獵改善ニ要スル國費增加不加能ノ現狀ニ鑑ミ速ニ狩獵法ヲ改正シ空氣銃ヲ本法ノ適用下ニ置キ以テ密獵ヲ防止シ團體施設ノ强化ニ依リ狩獵ヲ統制シ有益鳥獸及狩獵鳥獸ノ保護增殖ヲ圖リ國家福利ノ增進ヲ致シ併テ獵獲物ノ增加ヲ計ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日金井正夫君外一名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及**三**、**二九**ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト内容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二四　龜岡茨木間鐵道敷設ニ關スル建議案

政府ハ京都府南桑田郡龜岡町山陰本線龜岡驛ヲ起點トシ同郡曾我部村、東別院村、大阪府三島郡見山村、石河村、阿武野村、安威村、三島村、春日村ヲ經テ東海道本線茨木驛ニ直通スル鐵道ヲ速ニ敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十二日田中好君外一名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二五　松本高山間鐵道敷設速成ニ關スル建議案

松本高山間鐵道敷設速成ニ關スル建議

篠ノ井線松本驛ヨリ分岐シ高山本線高山驛ニ至ル鐵道ハ軍事上並産業上重要ナルノミナラス沿線一帶ハ山岳ト溪谷ノ自然美ニ富ムヲ以テ觀光上之カ敷設ハ頗ル必要ナリト信ス仍テ政府ハ速ニ之カ敷設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十三日百瀬渡君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建

議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二六　七尾金澤間縣道ヲ軍事用國道ニ編入ニ關スル建議案

七尾金澤間縣道ヲ軍事用國道ニ編入ニ關スル建議

七尾港ヨリ金澤市ニ至ル縣道ハ第九師團ノ所在地並大陸ト輸送關係ヨリ見テ軍事上緊要ノ交通路ナリ仍テ政府ハ此ノ縣道ヲ速ニ軍事用國道ニ編入シ全部國費ヲ以テ急速ニ改修セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十三日櫻井兵五郎君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二七　社會事業助成法制定ニ關スル建議案

社會事業助成法制定ニ關スル建議

刻下我カ國庶民階級ノ窮迫セル實狀ハ社會事業ノ擴充强化ヲ要望スルコト愈〻切實ナルモノアルニ拘ラス一般斯業ハ却テ萎靡不振ヲ極メ甚シキ窮境ニ陷リツツアル現狀ニ鑑ミ政府ハ速ニ社會事業助成法ヲ制定シ之カ奬勵助成ノ途ヲ確立セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十三日添田敬一郎君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一九一ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二八　名古屋太田間鐵道敷設ニ關スル建議案

名古屋太田間鐵道敷設ニ關スル建議

名古屋太田間ノ鐵道ハ既ニ鐵道豫定線ニ編入セラレ産業上竝軍事上重要ナル關係ヲ有スルコト勿論ニシテ高山本線ノ全通セル現在ノ狀況ニ鑑ミ益〻其ノ必要ヲ痛感セラルルニ至レリ仍テ政府ハ速ニ之カ敷設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十三日瀨川嘉助君外五名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

二九　狩獵法改正ニ關スル建議案

狩獵法改正ニ關スル建議

政府ハ農林産業上ノ見地ヨリ有益鳥獸ヲ保護シ且其ノ濫獲ヲ防キ密獵防止ノ不徹底ヲ匡正シ以テ此等鳥獸類ノ增殖ヲ圖ルノ必要アリ然ルニ近時我カ國民生活安定ニ關スル國費竝國防費ノ增大ニ因リ此等ノ施設ヲ爲スヘキ狩獵改善ニ要スル國費增加不可能ノ現狀ニ鑑ミ速ニ狩獵法ヲ改正シ空氣銃ヲ本法ノ適用下ニ置キ以テ密獵ヲ防止シ團體施設ノ强化ニ依リ狩獵ヲ統制シ有益鳥獸及狩獵鳥獸ノ保護增殖ヲ圖リ國家福利ノ增進ヲ致シ併テ獵獲物ノ增加ヲ計ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十四日紅露昭君外一名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及三、二三ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

三〇　水上生活者アパート建設ニ關スル建議案

水上生活者アパート建設ニ關スル建議

政府ハ水上生活者ノ爲ニ家賃七圓限度ノ「アパート」ヲ建設シ且同構内ニ産院及託兒所ヲ設ケ其ノ生活ノ利便ヲ圖ルト共ニ衞生施設ノ充實ニ努メラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日河野密君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

三一　守實日田間鐵道敷設ニ關スル建議案

守實日田間鐵道敷設ニ關スル建議

耶馬溪鐵道會社ハ鐵道敷設法別表ノ豫定線中津日田間鐵道ノ一部ヲ敷設シタリ其ノ後政府ノ命令ニ遵ヒ多大ノ犧牲ヲ忍ヒ軌幅擴張工事ト共ニ守實迄ノ延長工事ヲ完成シ豫定線中其ノ三分ノ二ノ二十二哩餘ヲ敷設シ殘餘ノ未成線守實日田間約十一哩ヲ殘スノミ仍テ此ノ未成線ヲ速ニ敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日重松重治君外六名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一八一ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「日田守實間鐵道建設ニ關スル建議」ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

日田守實間鐵道建設ニ關スル建議

政府ハ速ニ久大線日田驛及耶馬溪鐵道終點守實驛ヲ聯繫スル鐵道ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

三二　名古屋富山間縣道ヲ國道ニ編入ニ關スル建議案

名古屋富山間縣道ヲ國道ニ編入ニ關スル議建

名古屋市ヨリ愛知縣犬山町及岐阜縣太田町ヲ經テ高山市ヲ通過シ富山市ニ至ル道路ハ中部日本ニ於ケル太平洋ト日本海トヲ連絡スル產業上竝國防上重要ナル幹線道路ナリ仍テ政府ハ速ニ之ヲ國道ニ編入シ國費ヲ以テ改修工事ヲ施行セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日日比野民平君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

三三 久慈川改修ニ關スル建議案

久慈川改修ニ關スル建議

茨城縣久慈川沿岸ノ農村ハ年々出水氾濫ノ爲水害ヲ被ルコト甚シク住民ノ困憊極メテ大ナリ仍テ政府ハ速ニ之カ改修ニ著手シ其ノ完成ヲ期セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日中井川浩君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

三四 電信線電話線建設條例改正ニ關スル建議案

電信線電話線建設條例改正ニ關スル建議

遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年金四錢ノ手當金ヲ給與セラレツツアルモ此ノ金額ハ現今ノ經濟狀態ヨリ察スレハ極メテ過少ナルノ憾アルノミナラス其ノ給與ヲ受クル手續亦容易ナラス

次ニ遞信省ニ於テ補償スル建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害、瓦斯支管水道支管下水支管

電燈線電話線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用、伐除シタル竹木其ノ他植物ノ代價又ハ移植ノ費用等モ亦相當金額ナラサルヘカラサルニ其ノ評價額常ニ少額ニ失シ且前項ト同樣受領ノ手續煩多ナルモノアリ

故ニ政府ハ速ニ電信線電話線建設條例ヲ改正シ給與竝補償ノ金額ヲ現時ノ經濟事情ニ適應セシメ且其ノ受領ノ手續ヲ簡易ナラシメラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日佐藤與一君提出ス委員會ハ審査ノ末本案及一一四ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「電信線電話線建設條例改正ニ關スル建議ト」爲シ修正スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ本案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

三五　沖縄縣宮古郡ニ飛行場設置ニ關スル建議案

沖縄縣宮古郡ニ飛行場設置ニ關スル建議

政府ハ國防、產業竝內地臺灣間航空安全上ノ必要ニ鑑ミ速ニ沖縄縣宮古郡ニ飛行場ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日盛島明長君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ否出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

三六　小倉ヨリ後藤寺甘木太刀洗ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議案

小倉ヨリ後藤寺甘木太刀洗ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議

政府ハ鹿兒島本線小倉驛ヨリ分岐シ伊田、後藤寺、大隈等ノ筑豐炭田地ヲ縱斷シ秋月、甘木、

太刀洗、小郡ヲ經テ鳥栖驛ニ至ル九州中央幹線鐵道ヲ速ニ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日池田秀雄君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及**九**、**六八**ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ表題ヲ「小倉ヨリ後藤寺上山田 甘木太刀洗ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議」ニ改メ修正スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ（委員會報告書ハ本項第**九**參看）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二（**五**）參看）

三七　國立劇場建設ニ關スル建議案

國立劇場建設ニ關スル建議

皇紀二千六百年ヲ迎ヘ我カ國文化的新紀元ヲ確立セムトスルニ際シ文化史ノ中核ヲ形造ル演劇藝術ニ對シ之カ保護ト向上トニ寄與セムカ爲政府ハ速ニ國立劇場ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日牧野良三君外五名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及**一**ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二（**五**）參看）

三八　各戰役殊勳者優遇ニ關スル建議案

各戰役殊勳者優遇ニ關スル建議

各戰役ニ於テ拔群ノ武功ニ依リ金鵄勳章ヲ賜ハリタル者ニハ之ヲ優遇スル爲金鵄勳章年金ノ制度ヲ設ケ以テ國民ノ忠勇ニ酬イ士氣ノ作興ヲ促スニ資シタルハ適當ノ制度ナリト思惟ス然ルニ此ノ制度創始以來既ニ四十餘年ヲ閱シ曩ニ功五級以下僅少ノ改正アリシト雖其ノ間幾度カ增額セラレタル一般官公吏ノ恩給賞與賜金等諸般ノ給與ニ比スレハ其ノ率甚タ薄ク年金創設ノ精神ニ鑑ミ其ノ趣旨ニ副ハサルモノ多シト謂ハサルヘカラス金鵄勳章年金ヲ時世ニ適應シテ之カ根

本的改正ヲ斷行シ其ノ待遇ヲ徹底セシムルハ益〻奉公士氣ノ念ヲ鼓舞スル所以ニシテ御創定ノ威烈ヲ光ニスルモノト謂フヘシ仍テ政府ハ速ニ精神的國防充實ノ爲金鵄勳章年金ノ根本的改正卽チ功七級年金ヲ年額三百圓ニ其ノ他各級年金ヲ之ニ準シテ改正シ尙國有鐵道一定期間無賃乘車ノ特典付與等ニ付考慮ヲ拂ヒ之カ卽時實行ニ努メラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日小高長三郎君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及**五四**ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「戰役殊勳者優遇ニ關スル建議」ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

戰役殊勳者優遇ニ關スル建議

拔軍ノ武功ニ依リ金鵄勳章ヲ賜ハリタル者ヲ優遇スル爲設ケラレタル金鵄勳章年金ノ制度ハ創始以來既ニ四十餘年ヲ閱シ曩ニ僅少ノ改正アリシト雖其ノ間幾度カ增額セラレタル一般官公吏ノ恩給賞與賜金等諸般ノ給與ニ比シ甚シキ不均衡ヲ來シ從テ年金令制定當時ノ趣旨ニ反シ年金額ハ全ク其ノ當ヲ失スルニ至レリ仍テ政府ハ速ニ金鵄勳章年金令ヲ改正シ尙國有鐵道一定期間無賃乘車ノ特典付與等戰役殊勳者優遇ノ途ヲ講セラレムコトヲ望ム

右建議ス

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

三九　土讚線伊野驛ヨリ本川村ヲ經テ伊豫線ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議案

土讚線伊野驛ヨリ本川村ヲ經テ伊豫線ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議

土讚線伊野驛ヲ分岐點トシ仁淀川ニ沿ヒ本川村ヲ經テ伊豫線ニ連絡セシムル鐵道ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日尾崎重美君提出ス委員會ハ審査ノ末本案及**一二四**、**二二〇**ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ表題ヲ「土讚線伊野驛ヨリ豫讚線ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議」ニ改メ修正スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

土讚線伊野驛ヨリ豫讚線ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議

政府ハ土讃線伊野驛ヨリ仁淀川ニ沿ヒ豫讃線ニ至ル間ニ鐵道ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四〇　土讃線大杉驛ヨリ別子ヲ經テ新居濱ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議案

土讃線大杉驛ヨリ別子ヲ經テ新居濱ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議

本鐵道ハ高知縣中央北部四國山脈中ノ面積約五十方里ノ地域ヲ貫通シ愛媛縣別子銅山ヲ經テ新居濱ニ至ルモノニシテ瀨戸內海沿岸ト太平洋岸トヲ連接スル產業上文化上將タ軍事上重要ナル鐵道ナリ仍テ政府ハ速ニ之カ建設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日長野長廣君外一名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及**八五**ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「土讃線大杉驛ヨリ船戸及別子ヲ經テ新居濱ニ至ル鐵道建設ニ關スル建議」ニ改メ修正スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ本案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四一　北海道帝國大學ニ人文科學ニ關スル學部及水產學科設置ニ關スル建議案

北海道帝國大學ニ人文科學ニ關スル學部及水產學科設置ニ關スル建議

北海道帝國大學ノ歷史ハ最古ク而シテ現在漸ク農學、醫學、工學、理學ノ四學部ノ設置ヲ見茲ニ自然科學ノ領域ニ於テハ國ノ內外ヲ問ハス一大勢力ヲ占ムルニ至レルハ普ク知ラルル所ナリ然レトモ其ノ構成竝設備ノ內容ヲ考究スルトキハ未タ足ラサルモノ甚タ多キヲ認ム就中文化科學ニ關スル學部ハ全ク缺如シ且農學部ニ水產學科ノ設置ナキカ如キハ邦家ノ現狀ニ照シ最遺憾トスル所ナリ政府ハ速ニ此等ヲ增設シ以テ綜合大學ノ實ヲ整備シ充實セル研究ト敎授トニ資セシメラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十五日東武君外五名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及**四九**ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四二　大宮宇都宮間及大宮高崎間鐵道電化促進ニ關スル建議案

大宮宇都宮間及大宮高崎間鐵道電化促進ニ關スル建議

政府ハ東北本線大宮驛ヨリ宇都宮驛ニ至ル間及大宮驛ヨリ高崎驛ニ至ル間ノ鐵道ヲ速ニ電化シ運輸交通ノ利便ヲ圖ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日宮崎一君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四三　木更津ヨリ安房北條ヲ經テ茂原ニ至ル省線ニガソリンカー運轉ニ關スル建議

議案

木更津ヨリ安房北條ヲ經テ茂原ニ至ル省線ニガソリンカー運轉ニ關スル建議

政府ハ房總線木更津驛ヨリ安房北條驛ヲ經テ更ニ外房茂原驛ニ至ル間ニ「ガソリンカー」ヲ運轉セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日池田清秋君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建

議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四四 長崎縣臼ノ浦港ニ貯炭場設置ニ關スル建議案

長崎縣臼ノ浦港ニ貯炭場設置ニ關スル建議

長崎縣北松浦郡ノ地ハ筑豐ニ次ク炭田ヲ有シ其ノ石炭埋藏量ハ約十億噸ト稱セラル筑豐炭田ノ老朽ニ伴ヒ全國大資本家ニシテ此ノ地ニ投資スルモノ漸時多キヲ加ヘ今ヤ同地方ハ日進月歩ノ健全ナル發達ヲ見セツツアリ而シテ小佐々村臼ノ浦港ハ松浦線中唯一ノ天惠ノ良港ニシテ現ニ一萬噸級ノ汽船數艘同時ニ繫留石炭ノ積込ヲ爲シツツアル狀況ナルモ既設ノ貯炭場ヲ以テシテハ狹隘ニシテ各炭坑側ノ要望ヲ充タス能ハサルナリ仍テ同港一部ノ海岸ヲ埋築セラレ理想的貯炭場タラシムルヲ得ハ省線ノ收入增加ヲ計ルト共ニ鑛業界ノ殷盛ヲ期スルヲ得ヘク政府ハ一日モ速ニ之カ實現ヲ圖ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日佐保畢雄君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四五 湯前杉安間鐵道敷設速成ニ關スル建議案

湯前杉安間鐵道敷設速成ニ關スル建議

政府ハ速ニ熊本縣湯前、宮崎縣杉安間鐵道ノ敷設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日田尻藤四郎君外一名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四六　宮崎縣山手鐵道建設ニ關スル建議案

宮崎縣山手鐵道建設ニ關スル建議

日豐線富高驛ヨリ宮崎縣東臼杵郡東郷村山陰ニ至リ一ハ右折シテ西郷村田代西臼杵郡諸塚村ヲ經テ椎葉村上椎葉ニ至ル線、一ハ左折シテ東臼杵郡東郷村坪谷、南郷村神門ヲ經テ田出原ニ至ル線ニ鐵道ヲ建設スルハ獨リ地方文化ノ向上産業ノ開發上最必要ナルノミナラス日豐線ノ收益ヲ一層增大シ又國庫補助港タル細島港ノ利用ヲ益〻大ナラシメ地方國家ヲ通シ經濟上ニ及ホス影響決シテ少カラサルモノアリト認ム仍テ政府ハ國有鐵道本來ノ使命ニ鑑ミ急速ニ精密ナル調査ヲ遂ケ鐵道敷設法豫定線ニ追加シ速ニ之ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日田尻藤四郎君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四七　猿投神社昇格ニ關スル建議案

猿投神社昇格ニ關スル建議

政府ハ愛知縣縣社猿投神社ヲ官幣社ニ昇格セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十日岡本實太郎君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

四八　水産國策ノ確立ニ關スル建議案

水產國策ノ確立ニ關スル建議

我カ國現下ノ情勢ハ國防ノ充實ト相俟テ產業ノ振興ヲ圖ルノ甚タ急ナルモノアリ就中水產業ノ發展ヲ期スルハ刻下ノ一大急務ナリト信ス

案スルニ我カ國ハ其ノ地理的環境ヨリ觀ルモ海洋萬里ノ富源ヲ開拓シ之ヲ內ニシテハ國民生活ノ向上安定ニ資スヘク之ヲ外ニシテハ輸出貿易ヲ伸張シ以テ大ニ國家ノ富强ヲ圖ルヲ至當ト言フヘキナリ

然ルニ斯業ニ關スル諸般ノ制度、施設ハ輓近漸ク其ノ外形ヲ整フルニ至レルカ如シト雖之ヲ諸他ノ產業ニ比スルモ日進ノ世運ニ徵スルモ不備缺陷殆ト之ヲ指適スルニ遑ナカラムトス斯ノ如キハ海國日本ノ國情ト天惠トヲ無視スルノ甚シキモノニシテ我カ國現下ノ情勢ニ適應スル所以ニ非ス仍テ政府ハ左記各項ヲ根幹トシ速ニ水產ニ關スル國策ヲ確立セラレムコトヲ望ム

一　沿岸漁業ノ調整ヲ圖リ併テ漁業資源ヲ保護培養スヘキ施設ヲ整備スルコト

二　漁業組合ノ體系ヲ完成セシメ之ヲ樞軸トシテ漁村ノ金融其ノ他ノ經濟組織ヲ確立スルコト

三　海洋漁業ニ關スル施設ヲ擴充シ大ニ之カ振興ヲ促スコト

四　水產ニ關スル教育ヲ刷新シ斯業ノ科學的發達ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコト

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日高木粂太郎君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及四ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「水產國策ノ確立ニ關スル建議」ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ（委員會報告書ハ本項第四參看）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二（五）參看）

四九　北海道帝國大學ニ人文科學ニ關スル學部及水產學科設置ニ關スル建議案

北海道帝國大學ニ人文科學ニ關スル學部及水產學科設置ニ關スル建議

北海道帝國大學ノ歷史ハ最古ク而シテ現在漸ク農學、醫學、工學、理學ノ四學部ノ設置ヲ見茲ニ自然科學ノ領域ニ於テハ國ノ內外ヲ問ハス一大勢力ヲ占ムルニ至レルハ普ク知ラルル所ナリ

然レトモ其ノ構成竝設備ノ內容ヲ考究スルトキハ未タ足ラサルモノ甚タ多キヲ認ム就中文化科學ニ關スル學部ハ全ク缺如シ且農學部ニ水產學科ノ設置ナキカ如キハ邦家ノ現狀ニ照シ最遺憾トスル所ナリ政府ハ速ニ此等ヲ增設シ以テ綜合大學ノ實ヲ整備シ充實セル研究ト教授トニ資セ

シメラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日山本厚三君外八名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及四一ノ兩案ヲ併合シ修正スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ハ各原案ト內容同一ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五〇　木曾川上流改修ニ關スル建議案

木曾川上流ノ愛知縣側木曾川町地內ニハ本堤防及二重堤防アリ本堤防ハ愛知縣ト岐阜縣トヲ連絡スル重要道路ヲ構成ス從テ本堤防ノ土盛改修工事ヲ施行セムカ路面ハ一層縮小セラレ交通價値ヲ大ニ減殺シ近時世界的ニ進出セムトスル當地織物業ノ發展ヲ阻害スルコト大ナルモノアルヘシ仍テ政府ハ速ニ二重堤防ノ改修工事ヲ施行シ產業振興、災害防除ノ兩全ヲ期セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日渡邊玉三郎君外一名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五一　我カ國號ノ稱呼統一ニ關スル建議案

我カ國號ノ稱呼統一ニ關スル建議

我カ大日本帝國ノ國號ハ憲法ニ於テ明示セラルル所ニシテ國民ハ之ニ據リテ之ヲ稱呼セサルヘカラス然ルニ之ヲ外ニシテハ政府ハ條約文其ノ他ニ於テ自ラ外國ノ舊慣ニ依ル「ジャポン」「ジャパン」「ヤーパン」等ノ語ヲ使用シツツアリ又之ヲ內ニシテハ「ニッポン」及「ニホン」ノ兩樣ノ

稱呼竝用キラレ國民ハ其ノ適從スル所ニ惑フ
斯ノ如キハ國體觀念ヲ明徵ニシ國民精神ヲ作興スル所以ニ非ス政府ハ速ニ一層我カ國號ヲ尊重シ其ノ稱呼ヲ統一スルコトニ努力セラレムコトヲ望ム
右建議ス
右ハ昭和十二年二月二十七日佐藤與一君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五二　官幣大社宗像神社境域復興ニ關スル建議案

官幣大社宗像神社境域復興ニ關スル建議
官幣大社宗像神社ハ皇祖天照大神ノ御神勅ニ依リ天照大神ノ姫神ヲ奉祀スル神社ニシテ他ノ神社ノ創建トハ其ノ趣ヲ異ニシ所謂神勅ニ依リ天孫ノ所祭神社ナルニ拘ラス現在ハ諸殿宇腐朽シ境内亦狹隘且荒廢シテ境域ノ風致見苦シク神勅ノ大社トシテノ尊嚴ヲ缺クコト甚シ仍テ速ニ國費支辨ニ依リ建物ノ改修築、境内ノ大擴張ヲ實施セラレムコトヲ望ム
右建議ス
右ハ昭和十二年二月二十七日原口初太郎君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五三　小豆島山上ニ自動車巡行道路開設ニ關スル建議案

小豆島山上ニ自動車巡行道路開設ニ關スル建議
香川縣小豆郡大鐸村ヲ通過スル縣道最寄ノ地點ヨリ寒霞溪山上（四望頂）ニ至リ更ニ進テ星ケ城山頂ニ亙ル一帶ハ四時風光絶佳瀬戸内海ノ壯觀ヲ一眸ノ中ニ收メ得ヘク觀光國策上極メテ重要ナル境ヲ爲ス仍テ政府ハ速ニ之カ周遊ニ便ナル自動車巡行道路ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日戸澤民十郎君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五四　戰役殊勳者優遇ニ關スル建議案

戰役殊勳者優遇ニ關スル建議

金鵄勳章年金ハ其ノ制定後四十有餘年ヲ經過シ時勢ノ推移ト經濟界ノ激變トニ因リ各般ノ恩賞賜金給與等ニ對比シ甚シキ不均衡ヲ來シ從テ年金令制定當時ノ趣旨ニ反シ年金額ハ全ク其ノ當ヲ失フニ至レリ仍テ政府ハ速ニ年金令ヲ改正シ且一定期間國有鐵道乘車ノ特典付與等戰役殊勳者優遇ノ途ヲ講セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日尾崎重美君外四名提出ス委員會ハ審査ノ末本案及三八ノ兩案ヲ併合シ表題ヲ「戰役殊勳者優遇ニ關スル建議」ト爲シ修正スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ（委員會報告書ハ本項第三八參看）

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五五　赤江港指定港灣編入ニ關スル建議案

赤江港指定港灣編入ニ關スル建議

政府ハ大淀川改修工事ノ進捗ト最近宮崎縣ノ發展並地方產業振興ノ必要性トニ鑑ミ速ニ赤江港ヲ宮崎港ト改稱シ指定港灣ニ編入セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日三浦虎雄君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五六 鑛產稅全額地元市町村ニ委讓ニ關スル建議案

鑛產稅全額地元市町村ニ委讓ニ關スル建議

鑛業地ノ市町村ハ外面上其ノ財政豐ナル如キモ其ノ實質ニ於テハ之ニ反スル狀況ニ在リ即チ鑛業ノ爲ニ移住スル者ハ多數ノ勞働者ヲ大宗トシ之ニ小商人隨伴スルニ過キス故ニ課稅方面ヨリ見レハ其ノ擔稅力ハ極メテ微弱ナルニ反シ是等多數ノ人口ニ對スル市町村施設ニ於テハ教育、衞生、土木、警察等ニ亙リ莫大ノ支出ヲ要ス仍テ政府ハ鑛業法ヲ改正シ嘗テ其ノ半額ヲ地方ニ委讓セルニ鑑ミ更ニ鑛產稅全部ヲ地元市町村ニ委讓セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年二月二十七日牧山耕藏君外十七名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ（委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看）

五七 琵琶湖築堤竝澱川水系開發ニ關スル建議案

琵琶湖築堤竝澱川水系開發ニ關スル建議

政府ハ速ニ琵琶湖築堤竝澱川水系開發利用ニ關スル案ヲ立テ之カ實行ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年三月一日中山福藏君提出ス委員會ニ於テハ審査未了ニ終レリ

五八 相可吉野口間鐵道敷設促進ニ關スル建議案

相可吉野口間鐵道敷設促進ニ關スル建議

相可、吉野口間鐵道ハ紀伊半島(大阪、和歌山、奈良、三重各府縣ヲ含ム)中央ヲ東西一直線ニ横斷シ大阪、和歌山、吉野、宇治山田ヲ繫ク最短距離ニシテ三重縣飯南郡、奈良縣吉野郡地方ノ廣大ニシテ肥沃ナル未開發ノ林業富源地帶ヲ通過シ產業上其ノ利用價値頗ル大ナルモノアリ且軍事上ニ於テモ紀淡海峽ト伊勢灣口トヲ通スル重要ナル線路タルハ勿論觀光上ヨリモ吉野熊野國立公園ト伊勢神宮、志摩、鳥羽遊覽地方トヲ通スル最便利ナル線路ニシテ終始吉野川、櫛田川ニ沿ヒ風光明媚ナルコト他ニ讓ラサルモノアリ仍テ政府ハ速ニ右鐵道ヲ敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年三月一日長井源君外三名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ同月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ卽日政府ニ呈出セリ(委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看)

五九　警察官吏ノ公務鐵道三等運賃割引復活ニ關スル建議案

警察官吏ノ公務鐵道三等運賃割引復活ニ關スル建議

警察能率增進ノ爲政府ハ速ニ下級警察官吏ノ公務鐵道三等運賃割引制度ヲ復活サレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年三月一日鶴物市君提出ス委員會ハ審査ノ末表題ヲ「警察官吏ノ公務鐵道乘車優遇ニ關スル建議」ニ改メ修正スヘキモノト決シ同月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

警察官吏ノ公務鐵道乘車優遇ニ關スル建議

警察能率增進ノ爲政府ハ速ニ下級警察官吏ノ公務鐵道乘車ヲ優遇セラレムコトヲ望ム

右建議ス

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通修正議決シ卽日政府ニ呈出セリ(委員長報告竝議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看)

六〇　恩給法中改正ニ關スル建議案

恩給法中改正ニ關スル建議

昭和八年法律第五十號附則第十五條ニ左ノ一項ヲ加ヘラレムコトヲ望ム

第一項ノ規定ハ恩給法施行前同法第二十三條ニ掲グル公務員トシテ普通恩給(退隠料)ヲ受ケ引續キ文官ニ任ジ其ノ後退職シタルモ同法施行前ニ於テ從前ノ規定ニ依リ通算シ得ベキ文官ニ再任シ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ普通恩給(退隠料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テモ仍之ヲ適用ス

右建議ス

右ハ昭和十二年三月一日中野治介君提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ(委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看)

六一　長崎鐵道ホテル建設ニ關スル建議案

長崎鐵道ホテル建設ニ關スル建議

政府ハ速ニ長崎驛ヲ改築シ併テ國營長崎鐵道「ホテル」ヲ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ昭和十二年三月二日倉成庄八郎君外二名提出ス委員會ハ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ同月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十九日本案ハ山道襄一君提出阿賀驛ヨリ西條驛ヲ經テ志和口驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案外二百四十三件ト一括シテ會議ニ付シ委員會報告ノ通可決シ即日政府ニ呈出セリ(委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第二(五)參看)

六二　長崎市ニ高等水産專門學校設置ニ關スル建議案

長崎市ニ高等水産專門學校設置ニ關スル建議

我カ國ハ天與ノ水産國ニシテ水産物ハ我カ國重要輸出品ノ一タリ故ニ水産業ノ盛衰興亡ハ直ニ